

りつめい

題字・末川 博名誉総長

R
RITSUMEIKAN

立命館大学

立命館大学校友会報

NO.
231

2008
JANUARY

特集

学び舎の変遷にみる
立命館の歩み
― 広小路・衣笠編

Brilliance
輝くひと
64

番組は、生活者への贈り物

(株) 仙台放送 Dプロジェクト局企画制作部

ディレクター

太田 茂さん ('98法)

03 特集

学び舎の変遷にみる 立命館の歩み ——広小路・衣笠編

01 輝くひと

太田 茂さん

10 RITSUMEI INTERVIEW

身に染みつけた“京都”を刺繍で花開かせる

刺繍作家

長艸敏明さん

14 恩師の窓

加藤 蘭子 名誉教授(産業社会学部)

仲田正機 名誉教授(経営学部)

15 自由席

16 学びの交差点

垣根を取り去る努力が生み出す力

モンテ・カセムAPU学長

渡辺公三 先端総合学術研究科教授

22 RITSUMEX'07

オール立命館デー in東京

フォトアルバム

26 校友会ネットワーク

28 この一点

堂本印象美術館「椅子」

30 キャンパストピックス

32 新リッツマークプロモーション 進行中!!

33 Rits One 輝いていますときの人

林 享美さん

34 学生のスポーツ&イベント

36 INFORMATION



10



22



34

(株) 仙台放送 Dプロジェクト局企画制作部
ディレクター

太田 茂さん('98法)

番組は、生活者への贈り物

ふるさと東北で、“生活者に役立つ番組作り”にこだわるテレビマンがいる。去る10月に放映された仙台放送開局45周年記念特別番組『リサーチャーズ〜地震予知の探究者たち〜』を企画、制作した太田茂さんだ。

1995年1月17日。当時、経済学部1年生だった太田さんは明け方まで後期試験の勉強をしていた。いつになく犬や猫が異常に騒ぐ声を聞いた数時間後、阪神淡路大震災が起こったという。「あれが前兆だったのでは、という直感がこの企画の原点です」。「当時の報道は被害情報を繰り返すばかりで、必要な情報が後回しにされている印象でした。もっと生活者目線で情報を発信したいと思ったのが、今の仕事を選んだ一番の理由です」。

2年生から法学部に転籍し、刑法ゼミで学んだ太田さん。仙台放送入社後は、報道記者として、警察担当や裁判担当を経験。制作部に異動してからは、主にドキュメンタリー番組を担当してきた。その間、ずっと温めてきた企画が、世界の地震予知研究を紹介する科学番組『リサーチャーズ〜地震予知の探究者たち〜』だった。

「地震予知なんて無理という諦めが、地震への無関心を生み、結果、備えが疎かになる。私は、その悪循環を断ち切りたいからです。地震の謎に迫ることで誰かの命が救われるとしたら、こんなに嬉しいことはありません」。放送エリアは、宮城県以外にも拡大中。また最新の地震研究を紹介するホームページも好評だ(*1)。

現在、新設のDプロジェクト局で太田さんが担当しているのが『川島隆太教授のテレビいきいき脳体操』(*2)。仙台放送と東北大学の川島教授が共同開発したこの番組は、脳を活性化させ、認知症を予防する世界初のテレビ番組。番組のDVD化や書籍の全国展開にも力を入れている。

「私たち地方局にとっては、視聴者の皆様も取材を受けてくださる方々も共にふるさとに暮らす生活者です。双方への贈り物になるような番組を作り続けたい」。太田さんは優しさの滲み出る笑顔で元気に語ってくれた。

(写真・小幡 豊 文・寺田直子)

(*1)「大地震に備える」<http://jishin-info.jp/>

(*2) 仙台放送(月～金16時48分・再放送翌朝5時20分)、北海道文化放送・青森テレビで放送中。

特集

学び舎の変遷にみる 立命館の歩み

立命館大学の成長・発展の歴史を、目に見える形で物語るのが

キャンパス、そして校舎の姿の移り変わりで。

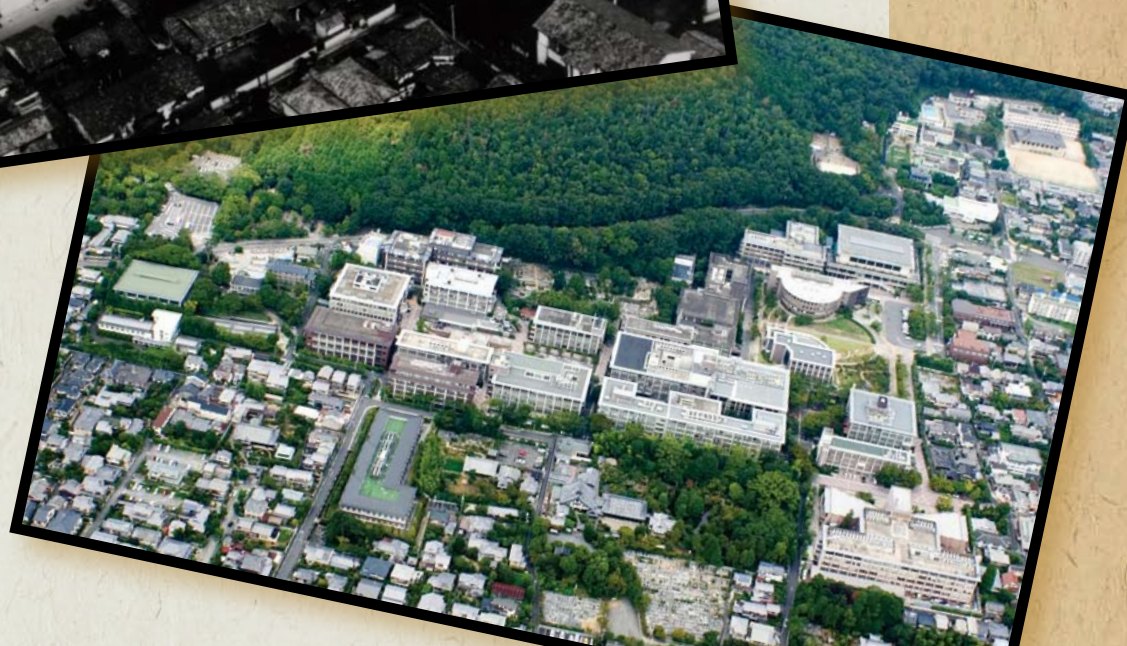
校地の移転もいわず、理想の教育・研究環境の実現をめざして進んできた立命館。

いくつもの校舎が、名や姿を変えつつも学生や大学の営みを見守り、

立命館のこころを伝え続けてきました。

あなたの思い出の校舎は、どれですか。

小路・ 衣笠編



清輝楼く広小路学舎の歩み

明

治維新、日清戦争を経て、社会が急速な近代化の波に洗われていた頃、本学は勤労青年のための夜間学校「京都

法政学校」として誕生しました。五年の後、学祖・西園寺公望は、かつて自ら設立するもわずか一年で消滅した私塾「立命館」の名を、中川小十郎に託したのです。

大正時代に校友会の支援によって専門学校から大学へと昇格した立命館は、その後着実に成長します。昭和の声を聞く頃から次々に校舎の建設がなされ、第二次大戦期こそ事実上の授業中止を余儀なくされたものの、終戦後は「平和と民主主義」の理念のもとで全学一丸となって急速な復興・発展を見せました。

一九六〇年代の高度成長期には、新しい時代に即した教学展開を目指して経営学部・産業社会学部を開設しました。しかし狭い広小路学舎にひしめきあう学生たちの教学環境の改善を図るべく、衣笠キャンパスへの一拠点化が決断されました。

広小路学舎での校舎建設は、一九六二年に経営学部棟として建てられ、三年後に産業社会学部棟となった恒心館をもって終わりました。経済・経営、産社、文と、順に衣笠への移転が進み、最後まで広小路に残った法学部も、一九八一年、広小路を去りました。八十年間に十万人の校友を送り出した広小路学舎は惜しまれつつ閉校しました。

現在は京都府立医科大学のキャンパスの一部となつて、「立命館学園発祥の地」の石碑が当時を伝えています。



存心館



京都御苑にて末川博先生とともに



研心館



清輝楼



1936年頃の広小路学舎



文学部棟(第二新館)

【年表・校舎竣工年】

- 一九〇〇年 中川小十郎 私立京都法政学校を旅亭清輝楼を仮校舎として設立。
- 一九〇二年 広小路に校舎新築、移転。
- 一九〇五年 西園寺公望 立命館の名称使用を許諾。
- 一九〇八年 校舎焼失。翌一九〇九年再建校舎竣工。
- 一九九年 全国校友会結成。
- 一九三三年 大学令による、大学への昇格を果たす。
- 一九三五年 立命館文庫 図書館開館。
- 一九三六年 養性館竣工。
- 一九三七年 盡心館竣工。
- 一九三八年 存心館および付属建物竣工。
- 一九三三年 京大事件(滝川事件)。京大を退官した十八氏を招聘。
- 一九三六年 中川会館竣工。
- 一九四五年 第二次世界大戦終戦。
- 一九四六年 立命館土曜講座開始。
- 一九四八年 新制立命館大学発足。法・経済・文の三学部に独立拡充。
- 一九四九年 文学部棟(第一新館)竣工。
- 一九五〇年 大学院棟、鴨川運動場竣工。
- 一九五二年 立命会館(学生会館)竣工。
- 一九五三年 研心館竣工。興学館(養性館を九十度回転)竣工。
- 一九五四年 存心館四階建てに。
- 一九五七年 清心館、尚学館竣工。
- 一九五八年 体育館(鴨川畔)、敬学館竣工。

第

衣笠キャンパス黎明期

二次世界大戦が始まった一九三九年、満州国で活躍する技術者の養成を目的として、理工学部の前身である立命館日満高等工科学校が開設されました。キャンパスは衣笠山のふもと、松林の広がる静寂の地でした。これが衣笠キャンパスの始まりです。

戦後、一九四九年に新制立命館大学の理工学部として再出発を切り、その発展とともに現キャンパスの西側を中心に教室や実験棟が建設されていきました。一九五〇年代に建てられた3号館、2号館は、一九九四年の理工学部BKC移転後も



現在の東門の位置にあった門
(1940年代前半)



1号館



衣笠球場



3号館(右)と2号館(左)



立命館扁額



中川小十郎



西園寺公望



清心館



恒心館



広小路学舎閉校祭典



「立命館発祥の地」石碑

【年表・校舎竣工年】

- 一九三九年 立命館日満高等工科学校開校。1号館竣工。
- 一九四二年 日満高等工科学校、立命館大学専門学部工学科に昇格。同理学科開設。
- 一九四八年 衣笠球場竣工。
- 一九四九年 新制立命館大学理工学部発足。数学物理学科・化学科・電気工学科・機械工学科・土木工学科の五学科。いずれも二部あり。
- 一九五四年 理工学部3号館竣工。
- 一九五六年 理工学部2号館竣工。

- 一九六一年 有心館竣工。
- 一九六二年 経営学部開設 恒心館竣工。
- 一九六五年 経済・経営両学部衣笠へ移転。産業社会学部開設。基本棟恒心館。
- 一九六八年 大学紛争発生。
- 一九七〇年 産業社会学部衣笠へ移転。
- 一九七八年 文学部・二部全学部衣笠へ移転。
- 一九七九年 学園本部衣笠へ移転。
- 一九八一年 法学部衣笠へ移転。広小路学舎閉校祭典開催。

衣笠キャンパス発展の軌跡

— 現存する校舎を竣工年順に追う —

1960年代

この時期に建った校舎には、元は理工学部校舎であり、後に改修されて用途が変わったものが多いです。

1960年代半ばから、経済・経営学部（ともに1965）を皮切りに広小路からの移転が始まり、キャンパスが賑やかになりましたが、後半には大学紛争が起こりました。そんな中でも植音は響いていました。

- | | | |
|---------|------|--|
| 1 有心館 | 1961 | 旧・理工学部4号館。現在、教室棟。 |
| 2 興学館 | 1963 | 旧・理工学部5号館。現在、エクステンションセンター自習室。 |
| 3 以学館 | 1965 | 元は経済・経営学部。2000年から産業社会学部棟。食堂、多目的ホールなども。 |
| 4 恒心館 | 1965 | 旧・理工学部6号館。産業社会学部基本棟を経て、2000年から国際関係学部基本棟。 |
| 5 啓明館 | 1966 | 旧・理工学部新1号館。現在は主に文学部の学生共同研究室や実習室など。 |
| 6 修学館 | 1966 | 個人研究室棟。 |
| 7 図書館 | 1967 | 図書館、マルチメディアルーム。 |
| 8 第1体育館 | 1969 | 体育館、トレーニングルーム、道場。入学センター。 |



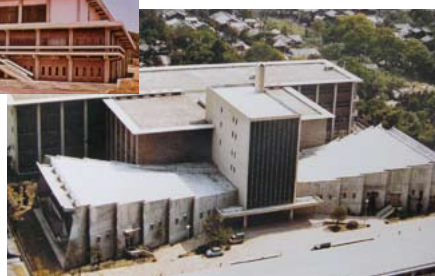
図書館



興学館



第1体育館



以学館

- | | | |
|--------------------|------|--|
| 9 学而館 | 1970 | 元は産業社会学部棟。現在は大学院施設、ボランティアセンター、障害学生支援室など。 |
| 10 学生会館 | 1973 | 学生のサークル部屋、練習施設、ホール。 |
| 11 志学館 | 1974 | 教室棟。保健センターなど。元は経済・経営学部が主に使用。 |
| 12 諒友館 | 1976 | 旧・理工学部7号館。現在、食堂。教室棟。 |
| 13 清心館 | 1977 | 文学部基本棟。 |
| 14 研心館 | 1979 | 教室棟。キャリアオフィス、エクステンションセンター、学生オフィス、スポーツ強化センター等、学生支援機能が集まる。 |
| 15 至徳館
(旧・中川会館) | 1979 | 元は学校法人本部棟。キャンパスインフォメーション。会議室など。 |



学而館



志学館



研心館



清心館



至徳館(旧・中川会館)

1970年代

キャンパス西側から東側に、徐々に校舎が建っていきます。教室棟に加えて、食堂や学生支援関連の施設なども新築され、いっそう大学らしくなっていった時期です。この間に、産社（1970）、文（1977）学部および学園本部（1979）が移転してきました。

法学部が広小路から移り（1981）、衣笠一拠点化が完成しました。また社会の情報化・国際化の進展に鑑み、理工学部情報工学科（1987）、国際関係学部（1988）が開設されました。これを受けて学内の情報基盤や交換留学制度の整備等が進み、また女子学生や留学生の姿も多く見られるようになりました。キャンパスの雰囲気が大いに変わった時期でした。

1980年代



松本記念ホール陪審法廷



西園寺記念館



存心館



末川記念会館



洋洋館



敬学館



アート・リサーチセンター



充光館



創思館



アカデミア立命21

16	存心館	1981	法学部基本棟。
17	第2体育館	1981	競技場、サークル部室。
18	末川記念館	1983	末川名誉総長メモリアルルーム、ホール、レストランなど。1999年松本記念ホール陪審法廷開設。
19	西園寺記念館	1988	元は国際関係学部基本棟。2004年から2006年まで法科大学院施設。
20	洋洋館	1988	旧・理工学部新4号館。1994年から政策科学部基本棟。
21	尚学館	1988	個人研究室棟。
22	尽心館	1989	個人研究室棟。マルチメディアルーム。

23	明学館	1990	教室棟。衣笠国際センター、京都国連寄託図書館も。
24	アカデミア立命21	1992	国際平和ミュージアム、中野記念ホール、衣笠セミナーハウス。2005年立命館孔子学院開設。
25	アート・リサーチセンター	1999	有形・無形の芸術・文化に関する、デジタルテクノロジーを活用した研究施設。
26	創思館	2001	主に人間科学分野の研究拠点、大学院施設、カンファレンスルーム。
27	ランゲージセンター	2002	言語教育センター、言語習得センター。
28	敬学館	2004	教室棟。
29	歴史都市防災研究センター	2006	文化遺産の防災に関する研究施設。
30	充光館	2007	映像学部基本棟。

理工学部がBKCへの拡充移転を果たした年（1994）に、衣笠には政策科学部が誕生しました。また、独立研究科や「21世紀COEプログラム」に採択されたプログラムの研究の場となるような、最先端の教育研究施設が次々と建設されていきました。映像学部棟充光館も完成し（2007）、中央広場は洗練された風情の建物で囲まれています。

1990～2000年代

衣笠キャンパス校舎にみる現在



中央広場周辺



図書館前から南門方向



夜の中央広場



学生会館入口



充光館屋上庭園からみた存心館

衣笠キャンパスの顔としておなじみになった「中央広場」。映像学部棟「充光館」、「存心館」、「創思館」に囲まれて、ますます美しくなりました。かつて中央グラウンドがあった時代の記憶が、遥かなものになっていきますね。

改修後の以学館は、ガラスや吹き抜けが多用され、明るい雰囲気。校舎前に敷き詰められた「京都市電の線路の敷石」の重厚感とあいまって、新旧調和し、いい感じです。

理工学部BKC移転後、キャンパス西側は大きく変わりました。元の新4号館は政策科学部の洋洋館に、6号館は国際関係学部の恒心館になっています。2号館、3号館は今はなく、「西側広場」として美しく、機能的に整備されました。2004年にはその西側広場の地下に、新しい食堂もできました。

洋洋館入り口にあるアーチは、「エコゲート」と呼ばれています。ここで風力発電・太陽光発電が行われ、できた電気は入口の照明に使われています。

西側 キャンパス



洋洋館入口エコゲート



清心前にて



啓明館前にて



西側食堂



ランチタイムの西側広場

映像学部棟「充光館」



充光館外観



301教室



バーチャルリアリティを体験



音響編集実習室

東側 キャンパス



以学館前にて

長 艸 敏 明

さん(77経営)

眠りから覚めて

展覧会、あるいは高級服飾誌のグラビアページで、長艸さんの刺繡作品に魅せられた女性校友は多かろう。それらは、瀟洒、粋といった風情から豪華絢爛の極みまで、あらゆる趣を醸し出す。京繡の着物、能装束、皇后陛下のドレス、そして海外一流ブランドのオートクチュール、バッグや時計、ファイバーアートに至るまで手がけ、長艸さんは刺繡による彩りの可能性を求め続けている。

平安時代から脈々と受け継がれている「京繡」の技。京都では、「繡い屋」と言われる。長艸さんは西陣に店を構える繡い屋の次男として生まれた。

長艸 両親は夜遅くまで仕事をしていたし、兄妹とも歳が離れています。だから町内の同じ年回りの友達と遊びに遊んでいました。家業を継ぐこともそれほど意識せずにいて、とにかく楽しく過ごしたかった。もともと絵を描くのはものすごく好きで、日本画を習いに

能衣裳「繡乱」



いったり、母や、よその先生から少しずつは刺繡を教わったりもしましたが…。若い頃、一番楽しみだったのは映画、それに芝居でした。高校を出るとき、サラリーマンになってしまったら映画見に行けへんし、それなら家の経理の仕事を僕がと思うて、やっていました。

「京都伝統産業青年会」に、何とはなしに入っていたんですが、二十歳になるかならへんかの頃に、第一回のヨーロッパ研修生の募集がありまして、外国へ行ってみたいと思うて手を挙げました。デンマーク、ドイツ、イタリアと回って、染織関係の現場や資料館を訪ねたり、マイスター、親方ですな、そういう方々にお会いしたりしました。その時初めて、「うちの商売、継ごかなあ」と真剣に考え始めました。兄は染めのほうの作家になったのですね。そして一緒に研修に参加した人たちの影響で「いまからでも、ちゃんと勉強せんとあかん。大学に行かないかん」とも思ったんです。昼間、真面目に刺繡をやり出したので、すぐには無理でしたけど。家業を継ぐなら早う一緒にやって、二人で仕事覚え

身に染み付いた「京都」を 刺繡で花開かせる



繡司長舩 工房にて。能衣裳「寒暁」(右)と「惜春楽」(左)をバックに。

たほうがええと、二十一歳で結婚しまして、大学に入ったんはそれからです。近所の人はみんな立命館。ほな、立命行こうと。家業の貸借対照表など作るのがとても好きやったんで、経営学部の一部へ。一生懸命勉強しましたよ。三回生までにかんりの単位を取ったのはよかったけれど、その頃から夜な夜な祇園界隈へ通い始めました。私の仕事にとつては、これも大切な勉強ですから(笑)。

技の力、人格の力

能衣裳「寒暁」の、笹にふんわりと積もる雪。「惜春楽」の、艶やかで引き締まった藤の花。生地の上に絹糸を渡し、立体感のある絵を自由自在に描き出すのが刺繍である。右手に持った針で、生地の上から下へ刺し、針を左手に持ち替えてまた上へ出す。生地裏まで透視しているかのように素早く正確な長舩さんの針運びに、思わず目を見張ってしまう。しかし驚くべきは、その技術だけではない。

長舩 我々は芸術家と職人、その両方ではないと。それが難しくもあり、面白いところでもあります。下絵描きの済んだ着物に、糸の束を置いて、使う色を決める。選んだ糸を管に巻き、求める質感を出せるように自分で撚る。この時、いくつかの色の糸をブレンドして一本に撚ることもあります。色は、一万二千色くらいを見分けられますよ。京繡の技法は三十以上あるけれども、よく使う繡い方は十五、六種類程度で、それを覚えること自体はそんな難しいものではありません。あ

Rits

とは工夫して、自分の表現を開拓していくわけです。

糸の操り方がテクニクなものだけれども、そのテクニクを使いこなすのは我々の

人格の力です。知識と経験の厚みとでも言いますか。そういうものです。だからそれも鍛えんとだめですよ。

まず、刺繍と言うても、そのことばかり考えてはいけません。刺繍はいろんな服飾文化の中の、装飾の技の一つに過ぎない。生地となる織物について、衣服全般について知らなければなりません。それから、刺繍や着物を取り巻く文化、つまり礼儀作法、着付け、お茶やお花、笛や三味線、お能、図案と関係する日本画についても、一通り理解せなければなりません。能衣裳をつくるにしても、例えば「羽衣」の衣裳ならば、羽衣の乙女がどの場面で行う動作をしはるのか、その時の心情がどうか、かが分かなければ、ふさわしいものではないでしょう。もつと言えは、「道成寺」の、大蛇になつてしまふ若い娘の青年僧への思慕の念と、「葵上」に出てくる六条御息所の、男を知り尽くした女性の心根とは違つてしょ。このへんのことを全部知つた上で、着物つくらなあかんです。まあ、これは僕の、「その人その状況にほんまに合うもんをつくりたい」という欲求にもつながってくることなんですけど。



「色出し」。使う色を決めていく。

オートクチュール着物への挑戦

京都の和装業界では、分業制が確立されている。非常に細分化された工程の一つひとつを経て製品が仕立て上げられ、それを問屋が買ひ付けて流通ルートに乗せていくのである。それぞれの生産工程を担う職人が、消費者と顔を合わせることは、このシステムにおいては少ない。

和服は誇るべき日本の文化である。しかし、ライフスタイルの変化や景気の後退の影響もあり、和装業界で生きる人々は次第に逆境に立ち向かわざるを得なくなっていく。

長艸 僕も、ええ問屋の社長はんにお世話になつてたし、大好きな皆さんもいっぱいいました。今思つたら人生の師匠のような人たちで。：「あんたは、ええもんつくるだけであえ。なんぼでも売ってきたさかい、どんなつくれや」って。そんな人ほど、早うになくなつてしまはつた。皆さん、大変やつたんです。だからといって、僕とこの商売やめられへん。どうしたらいいか、悩んでいました。

ある時期、いろんなところへ繡の実演をしに回つたことがあります。もう僕の手を離れたものが、その場で販売もされるんです。僕のアトの何段階もの利益分が重なっているの、値段はぐつと高くなつていました。それを、ご婦人が見はつて、「いや、これ、ええなあ。二百万か。：百万だつたら絶対欲しいわ」と。僕の段階では、百万よりもうんと安いんですよ。それに、やつぱり僕は、さつきも言つたように、一人ひとりのお客さんの、あるひとときに最もふさわしい着物をつくりたい。着る人、つくる者、お互い顔が見えるのが一番なんです。一繡屋として分業のシステムの中だけ

に居ては、いつまでたつてもお客さんの顔は見えません。流通ルートから外れることになるので大いに不安はありましたけれども、消費者の方に直接アプローチしたいと考えました。問屋はんの領域とバッティングせえへんように、能装束とか、小袖とか、まず美術工芸に近いものから皆さんに知っていただけるように工夫して。

立命館で、経営のいろんなことを勉強してもうたことで、新しいことにチャレンジする勇氣や、その方法のヒントがもらえたと思つてます。耳の痛いことも聞こえてきたけれど、頑張つたら応援してくれる人のほうが多いんですから。

桜散る雨の大覚寺で映える着物は

長艸さんが仕事の醍醐味を最も強く感じるのは、その人の、その時だけの着物の出来上りを思い描く時であるという。

長艸 お客さんとお会いして、どんな時にどんなところで着はるものかをお尋ねします。そしてその方のお年頃や、肌の色、お顔立ち、まあ、にじみ出てくる雰囲気ですな。それを総合して、地の色やら絵柄やらを、ああでもない、こうでもないと考えます。

例えば、「四月の桜の散る日に、大覚寺で素敵な男性とお会いするときの着物」やつたら、状況が目に見えてきますやん。僕の中で想像が膨らんできて、元々好きなせいもあるけれど、そのお客さんが主人公の映画みたいになつてくる。「春雨降るかもしれない。男はんがこんなふうな傘をさしかけて。：」って。すると、その着物は、そのお客さんだけの一枚になる。これほどでなくとも、お茶の世界の人か、花

Toshiaki Nagakusa



長艸敏明さん。代表作「洛中洛外図」とともに

- 1948年 京都・西陣に生まれる
- 1977年 本学経営学部卒業
- 1992年 繡・能装束～伝承の美・豊帯の魅力～展 (東京)
- 1994年 能衣装・小袖展 (パリ・バガテル城)
- 1995年 エルメス本店
ディスプレイ刺繍制作 (パリ)
- 1996年 衆議院本館議長室欄間 孔雀文
復元・新調
- 1998年 飛騨高山祭 屋台懸装 制作 (龍・虎)
- 2000年 平成創作能衣装・小袖展 (東京)
- 2002年 パリ春夏コレクション協力
(ジャン・ルイ・シェレルコレクション)
- 2003年 相国寺 法被八角龍 復元・新調
- 2004年 京刺繍～長艸敏明・純恵の世界展
(名古屋)
- 2006年 京繡 長艸の仕事展 (京都)
- 2007年 1200年の伝統に生きる 京繡の技
～長艸敏明・純恵の仕事～展 (旭川)

繡司長艸、貴了館ギャラリー、
刺繍教室等の情報はこちら

<http://www.nagakusa.com/>



柳界の人かといったことだけでも、ふさわしい色が全然違ってきますし、色もね、ある一色を足すか引くかで、似合う年齢の幅が十歳くらい変わるんですよ。不思議なものでしょう。ここで、祇園大学が生まれてくる(笑)。というわけで、この想像図づくりが山場です。この段階では、アーティストとしての感性を総動員しまして、その後は確かな段取りと技術でもって仕上げていくわけなので、職人としての僕になるんです。

汎用性のあるものと違う、とことんこだわったものやから、出来上がる着物は、ある意味でけつたいです。「なんやこれ」と言われつつも、人の興味をひく、それがベストです。そのためには自分自身が惚れ込める作品にしなければ。

でも、僕がなんぼ一生懸命つくっても、お祖母さん、お母さんから娘さんへと伝わる着物に勝るもんはありません。寸法を直したり、少しあしらいをし直すだけで十分素晴らしい。持ったはる着物を大切にすること、それも伝え

ていきたいのです。ある一瞬の大事な着物と、ずっと代々受け継ぐ着物、両方うまく組み合わせることで、装いが生きてくるんです。

お話を伺っている最中にも、長艸さんの手はきびきびと動き、エルメスのバックにあしらわれる刺繍が鮮やかに浮かび上がってくる。

長艸 たとえヨーロッパブランドの仕事をする時でも、僕の軸足はしっかりと京都にあります。この糸の手触りに音、糸の束をねじると、キュツ、キュツと絹の音がするでしょ、この中で僕は育った。毎日毎日おんなじことを繰り返して、京都が身体の中に染み込んでいる。一見ただけではわからへん、染み込んだもんが、京都の伝統を後世に、そして外の世界に伝えていくのやと思います。

僕ら京都の人間は、自負とか、主張したい部分をちゃんと持っています。あからさまには言わへんけど、振る舞いによって言うのが京都人。そして、その過程を日々楽しむ。僕も、こだわりのもって仕事したり、自分でも「京の着倒れ」の文化を楽しんだりする中で、「毎日遊んだはんのや、あの人」と言われないと(笑)。まあ、難しいことではないかな(笑)。



刺繍をする長艸さん

恩師の窓

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します



かとう そのこ
加藤 蘭子先生
名誉教授(産業社会学部)
在職 1979年～2005年
社会福祉論

先生からの一言

卒業生の皆さん、お元気ですか。福祉ゼミの合言葉であった『科学とヒューマンイズム』を胸に秘め様々な分野でご活躍のことと思います。私も生涯現役を目標に、現在も岐阜関市の大学と京都間の遠距離通勤に励んでいます。



教え子
村井文枝
(56産社)
社会福祉法人はるの里
小規模通所授産施設
はるの里勤務

あ

これの京都で学びたい。立命館大学の門をたたいたのが一九七七年春。地方からでてきた者にとって、キャンパスの大きさと学生数の多さにびっくりするやら、知り合いはできるのかと不安だらけのスタートとなったことが本心に懐かしい限りです。

そんな不安もクラスやサークル活動が私の素敵な居場所になり学生生活を充実させてくれました。クラスで取り組んだ原水禁大会参加のための署名や募金活動や学園祭への取り組みなどよき思い出です。

みんなでひとつのことをやりあげる達成感や社会と向き合うことを教えてくれた一二回生での取り組みが、福祉を学びたい思いへとふくらんでいきました。そんな思いで、迷いなく加藤先生の地域福祉ゼミを選びました。

加藤先生は、とてもお若く「ゼミの一番上のお姉さん」と呼びびしくなるような近い存在でした(今でもそうだと勝手に思っています)。加藤ゼミは一人ひとりの学生が思ったこと、考えたことを自由に発言できるよき雰囲気があり、楽しい時間と仲間を共有できると心底思いました。加藤先生から私たちゼミ生へのメッセージは、福祉は誰のためにあるのか、学んだことをどう自分の生き方につなげていくのか、『私の原点』を問うことだったのではないかと今にして思っています。

卒業して二六年、今も福祉の現場で働いている仲間がたくさんいます。私もその一人です。福祉情勢の厳しさは嘆くのではなく、変えていくことで続けられるのも加藤ゼミで培った『私の原点』があるからだ感謝しています。

仲

田先生は、私共が在学中に『卒業したら年賀状は絶対に絶やさないよ』とおっしゃり、時間をつくり札幌、金沢、新潟、東京と行く先々で卒業生とお酒を酌み交わされています。旧交を温める懐の深い人です。二十年前と全く変わらない笑顔で、会話も楽しく長く弾みます。

在学当時の仲田ゼミは、先生の明るさと清潔感溢れる性格から女子の間では一番人気、したがって、男子も必然的に一番人気。今風に言えば、品格のある先生です。仲田ゼミは相当の競争率で、まさに優良企業の人事部の如く、学術系、学園祭、学生運営、体育会、応援団等各方面で活躍している人を採用して、ゼミ生は多種多様、多才でした。先生は、学生と同じ視線でコンパ、旅行、宇多野セミナーハウスなどの合宿に積極的にご出席になり、楽しく過ごされていました。授業中は、経営管理という専門分野からモノの見方、分析視角を教授して戴き、ゼミ討論では経営学という学問だけでなく、人間育成の場として相手の意見を傾聴し、尊重し、見解の相違も理解する。理解して理解されることを学びました。情報の中で何が正しいか、情報の多重性もゼミで学びました。

いつもニコニコと接してくれた仲田先生ですが、一度だけ厳しく叱られたことがあります。合宿中の夏の夜、ゼミの女子が他校の学生に誘われたときに傍観していた男子に『君たちは何をやっているんだ!』と雷を落とされたのです。先生は、女子の安全を第一に考えておられ、それは、ゼミ生の後々の危機管理意識を醸成したことは言うまでもありません。現在は、京都橘大学で教鞭をとられているとともに、週一日は立命館でも教えておられます。今後も経営組織論を題材に多才な人材を育成されるでしょう。



な か た ま さ き
仲田 正機先生
名誉教授(経営学部)
在職 1980年～現在
国際比較経営論

先生からの一言

今もBKICに通って4年ゼミを担当しています。学生主体のゼミ運営は昔と同じです。学生の創意と工夫に驚かされることが、たびたびです。教えるとは学ぶことですね。皆さんのご活躍とご健勝を祈念しておりますよー。



教え子
山田 隆一
(62経営)
阪神機器(株)
代表取締役副社長

自由席

心のおもむくままに、言葉を紡ぎましょう

能楽部の活動と 九つの能面が結んだ縁

中村和蔵(古文)

日本の魂を伝える芸術

京都の町には、その歴史の深さを語る文化がある。歌舞伎、舞茶道、華道など枚挙に暇がない。

その古典芸能を大学のキャンパスでひたすら受け継ぐクラブがある。それが、「立命能」を演じ続ける立命館大学能楽部である。今年で七十八年という、本学芸系で最長の歴史と伝統をもつ能楽部の活動を紹介しよう。

立命館で学生時代を送った筆者は、異文化に触れようと「キヤラバンクラブ」に属し、大いに世界を覗き見た。しかし一方で、日本文化発祥の地京都で芸術に触れることは、日本の魂に触れることでもあると感じていた。十四世紀に始まった能や狂言のもつ芸術性は、庶民の批判精神をくすぐり、人間の持つ普遍性を極限まで追求し、洗練した舞台芸術に高めたものである。その舞台装置は、英国の古典演劇(シェイクスピア演劇)のそれにも似て、また、野外劇場で演ぜられるその雰囲気



2007年度立命能『殺生石』(写真:能楽部提供)

気にも共通している。文化や国情は異なっても、人間が作り出す芸術には共通点があることを再認識する次第である。

立命能の歴史

立命能の歴史は、一九二九(昭和四)年に遡る。当時、謡曲同好会が中心で、サークル活動から発足した。創世期、戦前、戦中、戦後復活の時代、そして、部員百五十名を超える全盛時代、学生能として一つの時代をなし、全国他大学との連帯の中で成長した時代、大学内に舞台を開き大学文化活動としての立命能を認知せしめた時代、役料制度を廃し財政と演能を分離し、シテ方、ワキ方、地謡方のすべてを学生が演ずる本当の

学生能を確立した時代、そして、一九八〇年代から現在に至るいかなる時代においても、部員たちの情熱と、舞台を見て来て下さる観客(市民)の存在、そして常に現役部員の活動を温かく見つめ、支援する先輩たちの存在があった。

部の歴史の中には種々の困難があったが、それを乗り越えて活動を続けられたのは、困難の先により確かな「舞台を見てもらえる喜び」や、部員同士の連帯と信頼創造する喜びが感じられたからであろう。今もその気迫と情熱をもつて舞台上上がる。それが、立命能の伝統を作り出している。

立命能の発表は、春は五月頃の「立命新能」、秋は十一月頃の「立命能」と、年二回ある。最近の演目は、『殺生石』、『巻絹』、『賀茂』、『花月』、『敦盛』、『龍田』、『野守』などである。現在は十三名の部員が、歴史と伝統を大切に引継いで頑張っている。先輩校友と現役部員のチームワークの良さは、能楽部の伝統でもある。

校友からの能面寄贈

一昨年、このように地道な立命能の活動に強力な助人が現れた。立命館中学校高等学校の退職教



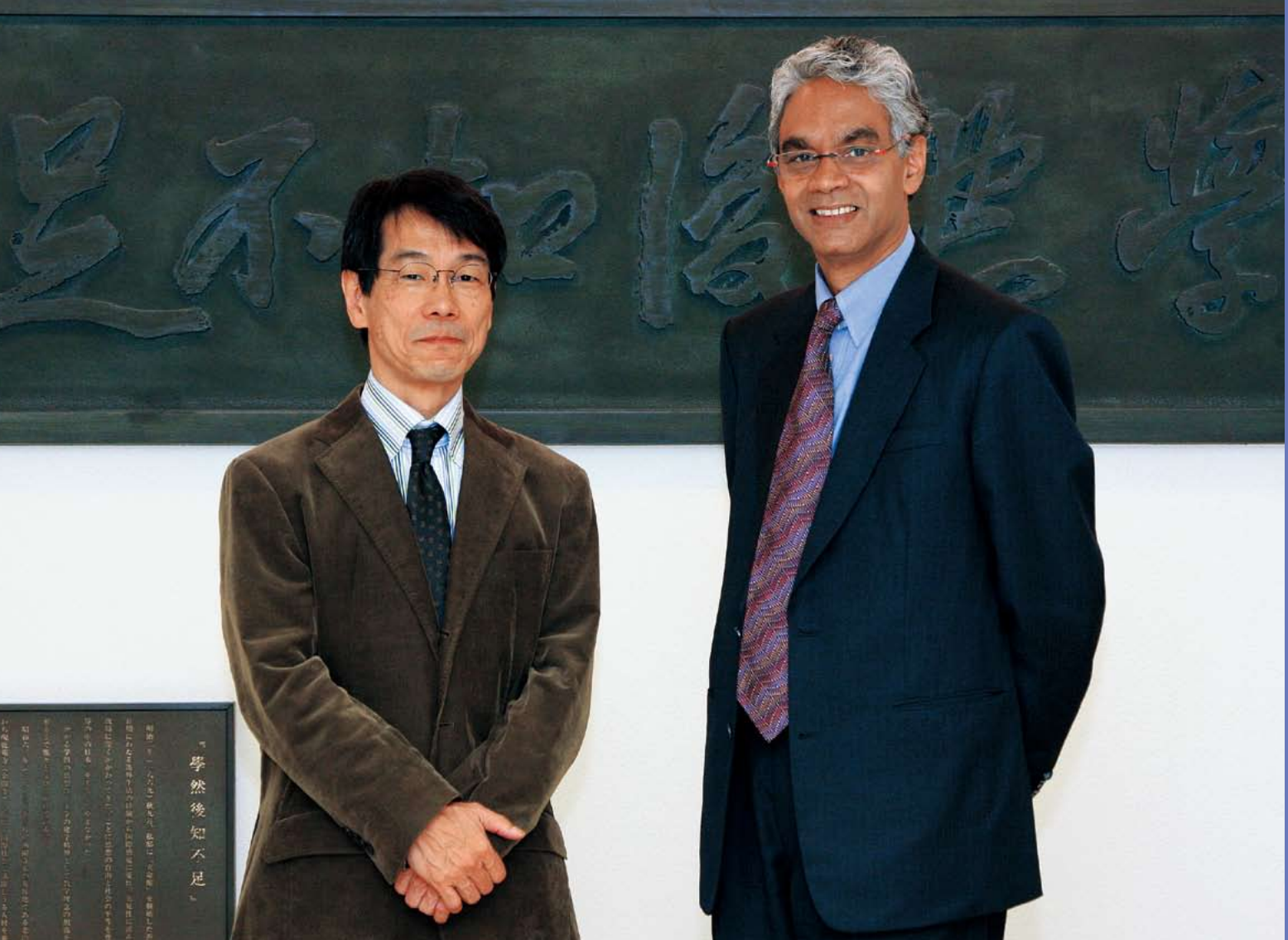
贈られた面をつける部員(写真:藤原秀夫氏提供)

員の一人、藤原秀夫先生(45専理、'52理工)である。一九四五年から教鞭をとりながら、卒業生たちの頑張りを見続けていた。

先生は退職後、市民講座などで能面を打つことを学び、この二十年ほどで数十余りの面を完成させた。「もし学生能で練習用にでも役に立つのであれば、寄贈したい」と申し出られて、九つの面(十六敦盛、小癒見、父尉、中将、喝食、平太、般若、泥眼、花月)の贈呈が実現した。部員達からは大変喜ばれ、丁寧な御礼状と、発表への招待状が届いている。部員達の立命能にかける情熱と努力が新しい人間関係を作り出したという温かい話である。

*本稿執筆にあたり、能楽部の尾藤広志部長(経済2)にお世話になりました。御礼申し上げます。

*『立命館大学能楽部創立五十周年記念誌』(一九八二)を参考にしました。



学びの交差点

垣根を取り去る努力が生み出す力

学問分野・国家地域・民族文化の枠を越えて

モンテ・カセム 立命館アジア太平洋大学学長

渡辺 公三 立命館大学大学院先端総合学術研究科教授

学問遍歴

カセム 渡辺先生、お久しぶりです。お元氣そうで。渡辺 カセム先生も、お変わりなくて。

カセム 先端総合学術研究科の設置構想を先生が練っておられるときに、よく一緒にしましたよね。渡辺 本当に、先生にはいろいろとお世話になりました。先端総合学術研究科に係わる話も、後ほど、私たちの大きな接点として取り上げたいと思います。今日は学びに関する対談ということで、まずはお互いの学問遍歴を語りましょうか。

サステイナビリティ研究に行き着くまで

理学・建築学・工学・人類学の融合

カセム 私の出発は理学からでした。大学の自然科学部で、物理学・動物学・植物学などを幅広く…。そんな時、同じ学部の中に建築学科が新設されたので、面白そうだと思って転科したのです。建築学を学んで良かったのは、それが文系、理系という垣根や、理性と感性の垣根を取り払ってくれる、総合的な実学の現場であったということです。建築とは創造的な解決策としての「物」、つまり建物や構造物を形作っていく作業です。複雑な工程を調整しながら、具体物として展開していかなければならない。その過程で、行政官・技術者・科学者から一般の市民まで、いろいろな能力や考え方を持つ人と出会い、多くのことを学んできたのです。

留学生として日本へやってきて、大学院では工学系の高度な技術を身につけようと勉強するとともに、あらゆる産業分野の、大小さまざまな規模の企業で、生産工程の調査・分析をしました。当時の私は、「工学的な技術によって、人間が直面している課題を解決したい」と考えていました。

具体的に何をすればよいか、まだ分かりませんでした。が、工程分析を研究の芯にすることは決まっていた。

民間企業で働いていたときには、自分の技術力を組織力として展開していくすべを身につけ、続いて国連の地域開発センターでは、生産工程分析という芯に、それまでに蓄積した多様な知識を結びつけて応用して、主に東南アジアで産業技術指導にあたっていました。

渡辺 今のカセム先生は、工学の枠の中だけに留まらない研究をされていますよね。

カセム 国連勤務の時代に、技術を指導するつもりで赴いた土地で、熱帯雨林や珊瑚礁の素晴らしさ、そこに暮らす人々が自然と係わる知恵の素晴らしさに触れていたんですね。でもその時点では、「こんな素晴らしい自然を壊してはいけない」と直感しただけで、それが持つ本当の価値に気付いていなかった。立命館の教員になって、自分のそれまでの研究や経験を整理する時間を持つて初めて、あの森や海の力がなぜ偉大なのかがよく分かり、人間の生産活動と地球環境の関係とを、広い視野をもって考えることができるようになったのです。こんなわけでその後は、地球にやさしい技術開発、人間にやさしい技術開発ということをやさしい技術開発、人間にやさしい技術開発という二つに大別することができました。例えば自動車製造業、建設業といった中核産業の生産工程を分析して、なるべく地球環境を傷つけない方法に変えていくということと、もう一つはもっと根源的な問題で、人間が壊してしまった生態系を復元し、生物の多様性を取り戻そうということ。これらが、いわゆるサステイナビリティ研究というもので、先生のご専門の人類学からも、最近では学ぶところが大きいんですよ。人類は、大変な矛盾を背負いながらこの地球上で生きています。人間の将来の生活環境を担

保している、例えば熱帯雨林やさんご礁といった生態系を壊し、資源を食いつぶすことによって、世界をめぐる富を生み出しているのです。それらの折り合いをいかにつけるのか、そのための方法を探してきたのです。学生や、現地の住民のみなさんと一緒に、水の浄化装置の開発・設置といったプロジェクトは、貧困の救済にも、環境保全の観点からも一定の成果を上げていますし、この頃は、二〇〇四年にノーベル平和賞を受賞された、ケニアのワンガリ・マタイ先生がなさっている植林運動とも連携して、手応えが感じられて嬉しかったです。

見逃していたものを探してヨーロッパ・アフリカ生活と人類学研究

渡辺 私は、人類学と真剣に向き合うまでに、いろいろと回り道をしてきました。

そもその始まりは、物心付いた頃に抱いたアフリカに対する関心でした。一九六〇年、アフリカ大陸にたくさん独立国が生まれました。それまで知らなかった世界がにわかにくろくろアツプされて、子供心にも、新しい太陽が地平線の彼方から昇るのを眺めるような期待感を感じられました。しかし、すぐに「コンゴ動乱」が起こって大変な混乱状態に陥ってしまった。それに衝撃を受けたのを覚えています。

アフリカとの出会いは鮮烈でしたが、幼少時から、外国、特にアメリカの影は常に感じながら育ってきました。隣人はアメリカのいわゆる軍属で、家のすぐ近くには進駐軍のキャンプがありました。朝鮮戦争が終わり、ベトナム戦争が始まる前です。

一九六八年、大学に入ると、南アフリカのapartheid（アパルトヘイト）に反対している人たちがいて、再びアフリカに関心が向き、反対運動にも及び腰が

モンテカセム



ら参加しました。けれども一方では、アフリカ世界を「人権」という観点だけで割り切って考えて良いものかという疑問も湧いてきたのです。人権という考え方はヨーロッパで生まれたものです。ヨーロッパから渡ってきた眼鏡をかけて、本当にアフリカのことが分かるのかという疑問です。それで人類学の道に入ったのだろうと今は思います。しかし、しばらくして、人類学それ自体もヨーロッパ起源であると気付きました（笑）。結局ヨーロッパからは逃れられないと。

ならば、アフリカ世界のみならず世界中に影響を与え、アメリカという国が生まれた背景にもなっているヨーロッパに行ってみようと思つて、大学二年の時にフランスに留学しました。日本の大学は荒れていました。そういう状況でも努力次第で身に付けられるものは外国語だろうと、フランス語を意識的に勉強して、しばらくの間、通訳をして生活していました。

この当時の経験は大きかったです。例えば日本の企業がアルジェリアにプラントを輸出して工場建設をするとなると、アルジェリアの国営企業の代表、フランスのコンサルタント会社の人、日本のプラント輸出会社の人、この三者が、工程表を見ながら細部にわたり検討する場がもたれます。そこに同席しました。この作業順序はおかしいかとか、無駄な費用を計上していないかとか。物事が形になっていく過程を、つぶさに見ることができました。場合によってはアルジェリア政府と日本企業のリーダー同士の話

し合いを通訳し、工場の現場で働く人たちと一緒に寝泊りもしました。

こうして、日本の社会、ヨーロッパの社会を垣間見た上で、今度こそ、そのどちらでもない世界であるアフリカを見てみよう、と、やっと決心がつきました。中央アフリカのザイール（現・コンゴ民主共和国）の、クバ王国という一地域の人々を研究対象にして、フィールドワークをしていました。そのうちに、一九九〇年頃でしょうか、現地の政情不安のために渡航もなかなかできなくなつてしまい、それから、課題を少し変えて、私が学んできた人類学というものの歴史をたどり直すことを通じて、その同時代のいろいろな学問が見過ごしてきた事柄同士の連関を調べるようになりました。私たちが社会の中で日頃感じている問題の原因が、従来の学問が見落としてきたことの中にあるのであれば、解決のために、何をどうすればいいのか。どのように問題提起をしていけばいいのか。人文社会科学の分野でも、こういうことを考えてみたいと思つたのです。先端総合学術研究科の立ち上げの仕事をするときにも、こんな思いに支えられていたのかもしれない。

学問・文化の垣根を取り払う

先端総合学術研究科、そしてAPU

渡辺 心の赴くままに海外に渡ったり、研究した

りして、もちろん人との出会いはたくさんありましたけれども、本質的には、私は一人で気ままに生きてきました（笑）。しかし立命館に来て、少し変な言い方かもしれませんが、社会人になったと思います。何か新しいセクションをつくるのか、プロジェクト的な仕事をするといったことを、立命館で初めて経験したのです。

先端総合学術研究科の構想は、二〇〇〇年から始めたのだったかな。新しい大学院をどんなものにしたのか、そこで何をやりたいのかを皆さんに説明し、よくご意見を伺った上で説得し、賛同してくださる方、力を貸してくださる方を増やしていく。これは、学問の世界で自分が何に関心を持ち、どんなことをしているのかを説明するのとは全く違う作業であつて、私は貴重な経験をさせていただきました。その過程で、カセム先生から多くのアドバイスをいただきました。もちろん、学術的な骨子を考えるにあたってもです。

私が思っていたのは、これからは人文・社会系と言われる分野でも、人や社会に対して提案して、動いて、実際に世の中の何かを変えていくことが必要だということです。ということは、新しい大学院は、人文科学、社会科学の研究をする者同士が、どういう社会にしたいのか、どういう人間関係を築いていきたいのかとの問いを投げかけあい、あれこれ議論する中で解決の方法を見つけていけるような場でなければならない。これを課題として意識していたと思います。

カセム あの時、渡辺先生とお話ししていて非常に感動したのは、先生が「**経糸**と横糸で新しい学問の生地をつくりたい」とおっしゃったことです。経糸としては、研究主題設定の軸となる、エシックス（倫理）、シヴィル・ライツ（公民権・基本権）、そして私の願いをいれていただいたサステイナビリティー（持続可能性）を、そして横糸として、公共、生命、共生、表象という四つのプロジェクト領域を設定されていました。専門分野という狭い枠組みを超えて、新しい学問を織り成しているという発想は素晴らしい。

四つのプロジェクト領域は、どれもこれからの人類にとって大変大きな課題です。例えば、「公共性」の再定義が、このグローバル化の動きの中で強く求められています。一方で、「生命」研究のプロジェクトに加わる学生は、例えば次のような研究をします。かつて「姥捨て」の仕組みがあった時代、人は集合体としての自分たちが生存するためには老人の生命は多少犠牲にせざるを得ないと自覚した上で、彼ら先祖神として祀ることでお返しをしていた。しかし今は、生まれた子供を長生きさせることが何より大切という価値観が変わっている。この変化のプロセスを説明しよう、と。これは、新しい倫理の基準づくりに貢献するもので、それに基づいて、人権や公共性といったものも問い直されていきます。こういう場合には、分野の垣根のない研究が必ず役立つと思います。それができて初めて、人間の在り方、生き方という深い問題を考えることができるのです。

渡辺 垣根がないと言えば、カセム先生は、立命館アジア太平洋大学（APU）という、国家・地域・文化の垣根を取り払った学びの場で大きなチャレンジをされ、成功していらっしゃいます。私が研究科長のころ同僚たちと毎年APUを訪ねて大学院への勧誘を試みました。その反響よりも何より

も、いろいろな土地から違った背景をもったさまざまな個性をもった学生たちが集まっている場所にいること自体がよい経験でした。未知との出会いは大学の一番大事な存在意義ですし、出会った後それぞれの世界は垣根を越えて互いを豊かにします。その楽しい緊張感はどう学食のメニュー選びからはじまる（笑）。こういう場を創り発展させる努力は並大抵のことではありませんが。

全体を見渡すことの重要性

カセム そうです。渡辺先生のご努力と、APUにいる私たちの努力には、垣根を外そうという共通点があります。他人のふところに入っていく、あるいは自分のほうに入ってきてもらう、そういう関係作りのプロセスは、越えるべき境界が学問であれ、民族や文化であれ、同じだと思います。最終的には、先生がおっしゃるように、人間同士のつながりが大切なんです。

私がなぜ垣根を低くすることにこだわるかというと、現代の科学は還元主義に陥りやすいのです。理科系出身なので、なおのこと気になるのかも知れませんが、ミクロのレベルを説明すればするほど、素晴らしい発見だとされる。確かに理解は進みますが、深く、細かく究明していくその過程で、全体像が目に入りにくくなってしまふ。私はこれが非常に不安です。全体的、包括的に物事を見る力もしっかり育てなければならぬと思います。ミクロレベルの話ではありません

が、例えば今の学生たちは、生物の多様性を取り戻したいと言うにもかかわらず、産業工程と環境の関係には無関心です。温暖化防止法を考えている者が、文化人類学で扱うような土着の民族の生活の知恵に目を向けません。これではいけないと思って、私はこれまでの研究成果をまとめた図を見せながら、「温暖化防止対策と、生物の多様性回復の問題は、こんなふうに関係しているのですよ」と助言をします。

価値観の垣根を取り払う

思いもよらなかった考えに学ぶ

渡辺 還元主義という言葉が出たので、それに連して少し申し上げますが、私は、フランスの^{*}レヴィ・ストロースという人類学者の仕事に非常に関心をもっています。カセム先生の言葉を借りれば、還元主義に対する全体論的な視点を、人類学の中に持ち込み、形作っていった人なのです。

レヴィ・ストロースは、南北アメリカインディ

渡辺



公三



Monte CASSIM (モンテ カセム)

略歴

1947年生まれ。1970年スリランカ大学自然科学部建築学科卒業後、来日。大阪外国語大学(現・大阪大学)で日本語を学び、横浜国立大学大学院を経て、1982年東京大学大学院工学系研究科博士課程都市工学専攻単位取得退学。1985年国際連合地域開発センター主任研究員。1994年立命館大学国際関係学部教授。1996年同政策科学部教授。2004年立命館アジア太平洋大学学長、立命館副総長、現在に至る。

専門分野

サステナビリティ(持続可能性)研究・国土計画・都市計画

主な著作

- ◎TACMIS - Total Access Care and Medical Information System: An inclusive design solution to the management of health care and medical information, INCLUDE 2005, Royal College of Art, London, 2005
- ◎Principles and Practice in Pursuit of Sustainability, SSDE, Science Council of Japan and Kobe University, Kobe, 2003
- ◎Life Cycle Assessment: Its prospects as a tool for creating a sustainable economic system."Cities and the Environment" United Nations University Press, 1999

アンの人たちが語り継いできた神話の研究をしました。その神話が語るもの、自分とは異質の世界に暮らす人々が語るものは何か、それをどのようにして聞き取ったらよいのか。こんなことを彼はずっと課題にしていた。そして、西欧文明がこれまでに生み出してきた哲学や宗教、歴史等々の観点とはまったく違う物の見方があり、私たちが思いもしなかった世界のとらえ方や、生き方があるということを、インディアンの神話に即して示しています。神話では、かつて人間は他の生物とコミュニケーションをとることができ、他の種に学んで自分たちが生きる知恵としていたと語られています。このことからレヴィ

Ⅱストロースは次のように考えました。昔、この地球に生まれた人類は、多種多様な動物や植物が存在し、それぞれの生き方をしているのを観察することによって多くを学んだのだと。つまり、種の多様性が人間の思考を生み、それによってまず語られたものが神話である。だとすれば、人間が地球上の種の多様性を損なうような行為を続けられ、人類は己の思考を殺し、いつかは滅亡に至る。そうならないための生き方を神話

から読み取ることができると。私は、二十世紀後半の人類学の中で、これが最大の英知ではないかと思っているんです。

カセム 私も地球環境を考えていく中で、文化人類学に触れました。ラバポートという研究者が、ニューギニアのある部族を研究して『先祖への豚』という著作を残しています。この部族の女性たちには、家畜の豚を育てる役割がある。一生懸命世話をして豚が殖えたと、女性たちは忙しくなり、苛立つ。これが家庭内に持ち込まれると、だんなさんとの仲が悪くなるんですね。男性たちは、「これは困った、神としてまつる御先祖様に何か差し上げねば」と、豚を捧げる。すると豚の数が減って、平穏な暮らしに戻る。これは環境の基礎原理である循環性について語っているのです。

実は私は長い間、文化人類学がいったい何の役に立つのかと思っていました。渡辺先生や、このラバポートに出会う前は…。でも今は、素晴らしい知識の宝庫だと確信しています。なぜこういうことに関心を持ったかという、私はかつてマレーシア政府からの依頼を受けて、後には国連職員として、ボルネオ島のキナバル山のふもと

の村で生産性向上のための技術指導をしたことがあります。「せっかく栽培するなら、商品価値の高いキャベツやブロッコリーにしましょう、露地栽培では虫に食われてしまうから、ハウスをつくって収穫時期の調節も考えましょう」という具合に。すると村の長老が言いました。「あなたの言うことはよく分かる。我々が豊かになれば有難いとも思う。でも、虫は何を食べたらよいのですか?」と。若かった私は、「虫は無視して」と強引に仕事を進めました。今、その村を訪ねると、確実に豊かになっていて喜ばしい。しかし私は一方で、虫はどうしているのかという思いを消すことができないのです。

地球環境保護のためには、エネルギーの循環がなるべく大きな規模で行われることが大切です。かつての私は、功利主義的なものの見方しかできずに、この野菜を市場に出せばどの程度の金がかかるのかとしか考えていなかった。しかし、村の長老は、小さな虫まで視野に入れて、地球規模で命の循環を考えていました。このすばらしさに気付いた、ちょうどその頃に出会ったのが、さきほどのラバポートです。これらをきっかけに私



渡辺 公三 (わたなべ こうぞう)

略歴

1949年生まれ。1974年東京大学教養学部教養学科卒業。1981年東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程単位取得退学。国立音楽大学助教授を経て、1994年立命館大学文学部教授。2003年同大学院先端総合学術研究科教授、初代研究科長(2006年3月まで)。現在、立命館大学衣笠総合研究機構長。

専門分野

文化人類学・人類学史・アフリカ研究

主な著作

- ◎『レヴィ=ストロース『神話の森』へ』(共編著) みすず書房、2006年
- ◎『文化人類学文献事典』(共著) 弘文堂、2004年
- ◎『レヴィ=ストロース——構造』講談社、2003年
- ◎『司法的同一性の誕生』言叢社、2003年
- ◎『食卓作法の起源』(神話論理3、レヴィ=ストロース著、共訳) みすず書房、2007年

世界のどこかにいる 誰かを支える

は、もっと広い視野のもとで生産工程の分析やエネルギーの出入りの換算を行おう、地球規模のライフサイクルアセスメントを生涯の仕事にしようと思っただけです。

渡辺 素晴らしい長老との出会い、うらやましいですね。私も、人類学を学び始めた頃には、我々の思いもよらない生き方、考え方をしている人たちに、どこかで実際に出会えるかもしれないという期待を持っていました。けれどもアフリカに渡ってみたら、実のところはみんな「先進国」に憧れているんです。なぜ自分たちは進んだ文明からはじき出されているのかという不満も大きい。今日まで持続してきた、自分たちの生き方に自信をもっている人に出会うことは、あまりありませんでした。

カセム そうなんです。グローバル化、情報化が進んだ現代ですから、ただ古い生活様式を美化するだけでは現実的ではありません。先程の長老

がいた村の女性たちは、若い頃は輝くように美しい。けれども四十歳くらいになると、歯はガタガタ、肌はしわだらけになってしまふ。なぜそれほど美しかった人たちが、これほど急激に衰えてしまふのか。彼女たちにも日本のファッションナブルな中高年の人たちのように生きて欲しいと思えば、やはり近代産業経済の要素を取り入れるしかない、と、私自身、判断しています。

このような前提のもとで、富を作り出す工程を、地球のサステイナビリティ原則の範囲内で動かすことにし、破壊された環境の回復に努力し、そして先人の知恵を、適度に教育の中に取り入れるように工夫していきたいと私は考えているのです。これらは自分の殻に閉じこもっているではない。何度も申しますが、研究と実践の仲間を求め、奥深い知識と広い視野を融合させ、垣根を外そうと努力するところに、新しい価値や可能性が生まれると信じています。

渡辺 確かに、こういう時代だからこそ、自分以外の人の声に、常に耳を傾けておくことが大切だと思っています。従来の文明世界は、自分たちとは異なる価値観を否定して、己だけが正しいという

思考で進んできたものだと思います。自信を持つのはいいのですが、他者の声に耳を閉ざしてはおしまいです。

最近読んだ、坂本龍一さんと天童荒太さんの共著、『少年とアフリカ——音楽と物語、いのちと暴力をめぐる対話』(文藝春秋)の締めくくりに言葉は、こうです。「人は生きていけば、きつと誰でも、世界のどこかにいる誰かを、支えている可能性があるということ、普遍的な真実として、静かに受け止めたい。こういう感覚を、我々がどこまで持てるか、それが世界の今後にとってとても大切なことだと思います。

【注】

- *1 立命館大学先端総合学術研究科 二〇〇三年四月開設の独立研究科。五年貫制の博士課程。
- *2 還元主義
物事を細かい構成要素に分解し、個々の要素について理解すること。元の事物をも理解できるとする考え方。
- *3 レヴィ=ストロース
Claude Lévi-Strauss (1908 -)
ラボール
Roy Abraham Rappaport (1926-1997)

RITSUMEI X '07 オール立命館デー

学校法人立命館との共催、そして東京開催という二つの“初”が重なり、秋の恒例行事・校友大会が、2007年大きな飛躍を見せた。

11月4日（日）、「東京国際フォーラム」に、“立命館の現在”のパワーが集結。

大勢の校友・学生・教職員に加えて、入学を志望する高校生やその保護者が訪れ、会場は終日熱気にあふれていた。

B7ホール

ALL-Rits 立命館校友大会2007

校友大会本大会は、B7ホール会場とB5ホール会場（20～30代の校友限定、後述p.25）で並行開催された。

メイン会場B7ホールの企画は、長谷川豊フジテレビアナウンサーの司会のもと、立命館アジア太平洋大学の和太鼓チーム「楽」の勇壮な演奏で開幕。学祖西園寺公望公のご曾孫西園寺裕夫氏ご夫妻、学園創設者中川小十郎先生のお孫様中川重一氏、国会議員の泉健太氏、川合孝典氏、古本伸一郎氏らが来賓としてご参加下さった。

山中諄校友会会長、川口清史総長、モンテ・カセムAPU学長による挨拶、来賓紹介に続いて、長田豊臣理事長が西村義行校友会副会長

（大会実行委員長）や関東各都県校友会長と共に乾杯の発声をされ、懇親会がスタート。今回格別にご尽力くださった関東近隣の校友会の皆さん、全国各地から仲間とともに駆けつけた皆さんが、いくつかの歓談の輪をつくった。盛り上がりがピークに達する頃、ばんぱひろふみさんによるステージが始まり、一同盛んに声を合わせていた。

立命館大学応援団の演舞演奏の後、川本八郎相談役がオール立命館の校友たちに感謝の念を示されると、会場は割れんばかりの拍手に包まれた。



山中諄校友会会長



川口清史総長



モンテ・カセムAPU学長



長田豊臣理事長



川本八郎相談役



開会を待つひととき



ばんぱひろふみさん



和太鼓チーム「楽」



立命館大学応援団



長谷川豊フジテレビアナウンサー



RITSUMEX'07 開催記念対談 京都のちからと立命館

主なプログラムのトップを切って行われた記念対談。京都の文化を体現されている、あるいは京都との縁を大切に活躍されている、池坊由紀氏（華道池坊次期家元）、村田吉弘氏（料亭「菊乃井」主人、'74産社）、瀬木直貴氏（映画監督、'87文）、陰山英男氏（立命館小学校副校長）をお迎えし、「文化の創造と京都観」をテーマに、それぞれの専門分野における課題や今後の方向性について意見を述べていただいた。司会は、おなじみの小林綾子氏（女優、'95文）と、本郷真紹副

総長が務めた。

古き良き伝統に新しい潮流を上手く取り入れて発展してきた京都の文化力や、それを支えてきた京の人々の見識の高さについて、各パネリストが経験を踏まえて語ると、それを受けて本郷副総長が「文化の創造・発信という重要な役割を担いつつ、立命館が培ってきた文化をベースに、京都の大学として未来に新しい花を咲かせていきたい」と締めくくった。



対談風景



池坊由紀氏



村田吉弘氏



瀬木直貴氏



陰山英男氏



小林綾子氏と本郷真紹副総長



熱心に聴き入る



B5ホール

ALL-Rits キャリア交流サロン

20～30代の若手校友が集った「キャリア交流サロン」のプログラムは、東京で働く若手校友9名が中心となって企画した。そのテーマは、母校立命館との繋がりや校友同士の繋がりを再び取り戻そうという「Re-CONNECT」(Re=リターン・リツメイ、CONNECT=繋がり)。染谷洋祐さん('03国関)、カイリー・ピアスさん('07APS)のお二人と、ゲストの野菜ソムリエ王理恵さんが、テンポ良く会の進行をリードしていく。

メインイベント「18人連続怒涛の出会い」は、事前に配布された参

加各人の名刺を、決められた時間内に渡し合い、相手との会話を楽しむというもので、1ラウンド6分間の3ラウンド。1人の相手と1分間歓談すれば、18人の友達ができるというわけだ。

盛り沢山の1時間半はあっという間に過ぎ、竹本慎也APU校友会会長('03APM)の締めめのスピーチで終了。予定をはるかに上回る500名の参加者それぞれが新たな交友関係を広げ、イベント終了後も話を弾ませていた。



王理恵さん



竹本慎也APU校友会会長



企画した若手校友たち



「18人連続怒涛の出会い」



若者の笑顔であふれた

G棟6階

京都みやび展

衣笠キャンパスのすぐそばに工房を構える井堂雅夫氏による「京都百景」版画展と、校友で、京都を代表する写真家である北奥耕一郎氏('71法)の「京艶」写真展に加え、「京都歴史回廊協議会」の活動を紹介するパネル展示などが行われた。

そして茶道研究部の学生がお点前を披露。来場者の憩いの場となっていた。

日本一の学生に挑戦

日本一の力を持つ、かるた会、囲碁研究部、将棋研究会の学生たちに、来場者が挑戦できるという企画。幅広い年齢層の校友等が学生の胸を借りた。挑戦者は一様に学生の強さに舌を巻きながらも、世代間交流を大いに楽しんでいった。

京都学講座

東京キャンパスで開講の「立命館京都文化講座」でも授業を行った加藤政洋文学部准教授が、「京都の花街をそぞろ歩き—上七軒から島原、そして東三本木から祇園界隈まで—」とのテーマで講演された。



「京都歴史回廊協議会」パネル展示



「京都百景」版画展



茶道研究部によるもてなし



囲碁研究部。川本相談役も挑戦。



「京艶」写真展と「京都学講座」

Ritsキャリア対談 先輩校友からのメッセージ

こちらにも主に若手校友向けの企画。「非凡と平凡の間〜プロフェッショナルの世界〜」をテーマに、清武英利氏（読売巨人軍代表、'75経済）と井辻秀剛氏（コカ・コーラカスタマーマーケティング（株）社長、'84経営）が、それぞれの体験や持論を語られた。聞き手はフジテレビアナウンサーの長谷川豊氏（'99産社）。

清武氏は、人生における失敗と成功との差を「ブンブンとピコピコの差である」と表現。巨人軍の寮に「ピコピコ」というゲーム音の聞こえる部屋もあったなかで、現在ニューヨーク・ヤンキースに所属する松井秀喜選手の部屋からは毎日「ブンブン」と素振りの音が聞こえていたとのエピソードを紹介した。そして、1日1日で見ると少しの差ではあるが、その積み重ねが非凡と平凡とを分けると語った。井辻氏は、非凡と平凡との境界線は「目標の設定」にあるとして、自ら立てた目標に向かって着実に、時に果敢に行動することの重要性を呼びかけた。

最後には客席の校友・学生との間で質疑応答が交わされ、大盛況の後に幕を閉じた。



清武英利氏



井辻秀剛氏

地下展示ホール

Rits/APU オープンキャンパス in 東京

立命館大学の学部別パネル展示や入試相談コーナー、またAPUや附属校の入試相談ブースが設けられ、たくさんの高校生らが訪れた。さらに法学部・文学部・映像学部・APUの模擬講義や「理系実験体験ブース」など、東京にいながらにして立命館の学びを体験できるスペースもあり、入学志望の高校生たちは真剣な表情で参加していた。

このほか、生命科学部・薬学部の開設（2008年4月予定）を記念し、JT生命誌研究館長の中村桂子氏とタレントの眞鍋かをり氏を招いて開催した「サイエンスフォーラム」や、学生たちのパフォーマンス、APUによる国際色豊かなパネルディスカッション企画「輝けAPU! なぜ、APUは人材の宝庫なのか」が行われた。



APUパネルディスカッション



入試相談コーナー



Dig Up Treasure



サイエンスフォーラム

Ritsメモリアル対談

アーティストの倉木麻衣さん（'05産社）と指導教員であられた有賀郁敏教授による、倉木さんの学生時代を振り返る対談が予定されていたが、倉木さんの体調不良により急遽プログラム変更。強い愛校心から不調を押して挨拶に立った倉木さんはオープニングに登場、その後は有賀教授が、倉木さんと友人たちとのエピソード等を紹介した。聞き手はスポーツアンカーの近藤祐司氏（'95経済）。



書道部パフォーマンス



有賀郁敏教授と近藤祐司氏

校友会ネットワーク

2007年9月上旬～12月上旬に行われた各団体の行事です(判明分)

都道府県校友会ほか

- 9/23 京都校友会総会 (700名・ウェスティン都ホテル京都)
- 9/23 福島県校友会総会 (29名・東山温泉「新瀧」)
- 9/26 兵庫県校友会総会 (160名・チサンホテル神戸)
- 9/29 宮城県校友会総会 (42名・勝山館)
- 10/8 島根県校友会総会 (40名・島根ワイナリー)
- 10/14 千葉県校友会「歴史地理探訪」 (32名・千葉県流山市)
- 10/20 青森県校友会総会 (25名・青森グランドホテル)
- 10/22 和歌山県校友会総会 (90名・ダイワロイネットホテル和歌山)
- 11/4 埼玉県校友会総会 (100名・東京国際フォーラム)
- 11/4 茨城県校友会総会 (30名・東京国際フォーラム)
- 11/9 北九州校友会総会 (100名・ステーションホテル小倉)
- 11/9 鳥取県東部校友会総会 (45名・白兔会館)
- 11/10 鹿児島県校友会総会 (76名・ステーションホテルニュー鹿児島)
- 11/10 山口県山口地区校友会総会 (37名・山口市湯田温泉「翠山荘」)
- 11/16 鳥取県西部校友会総会 (36名・米子全日空ホテル)
- 11/17 石川県校友会総会 (90名・金沢ニューグランドホテル)
- 11/17 宇部・小野田地区校友会総会 (25名・堀辺旅館)



京都校友会総会



兵庫県校友会総会



宮城県校友会総会



千葉県校友会「歴史地理探訪」



青森県校友会総会



北九州校友会総会

- 11/17 佐賀県校友会総会 (40名・旅館あけぼの)
- 11/22 福岡県校友会総会 (240名・ソラリア西鉄ホテル)
- 11/23 広島県東部校友会総会 (70名・西山別館)
- 11/23 大分県校友会総会 (69名・APU)
- 11/24 愛知県校友会総会 (400名・名鉄グランドホテル)

地域校友会

- 9/7 湘南クラブ総会 (30名・ホテル好養)
- 9/8 兵庫県淡路支部南あわじ地区校友会総会 (20名・アワジ花ホテル)
- 9/30 京都八幡支部「えんじの会」総会 (30名・松花堂庭園)
- 10/13 愛媛県校友会今治支部総会 (40名・「笹」)
- 10/19 北摂校友会総会 (57名・ホテルアイボリー)
- 10/20 高槻・島本校友会総会 (90名・高槻現代劇場文化ホール)
- 10/20 立命館大学APU合同台湾校友会 (40名・台北国賓大飯店)
- 10/21 長野県校友会北信支部総会 (16名・ちゃんこ亭えん楽)
- 11/10 広島県校友会西部地区校友会総会 (25名・割烹料亭永渡屋)
- 11/16 マレーシア校友親睦会 (23名・セリ・パシフィック・ホテル・クアラルンプール)
- 11/24 上海校友会 (100名・ヒルトン上海)
- 12/1 長野県校友会東信支部総会 (20名・小諸グランドキャッスルホテル)



兵庫県淡路支部南あわじ地区校友会総会



京都八幡支部「えんじの会」総会



北摂校友会総会



立命館大学APU合同台湾校友会



長野県校友会北信支部総会



広島県校友会西部地区校友会総会

Alumni Association Network

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>

職域校友会

- 10/4 尼崎市役所「比叡会」総会
(23名・ホテル「ニューアルカイク」)
- 10/4 Rits不動産ネットワーク総会 (71名・京都ホテルオークラ)
- 11/6 石川県庁立命会総会・懇親会 (23名・金沢都ホテル)
- 11/22 近鉄百貨店衣笠会総会 (58名・ホテルメトロ THE 21)

学部・学科校友会

- 9/8 文学部哲学同窓会総会
(40名・朱雀キャンパス多目的ホール)
- 9/17 経営研究会同窓会総会 (25名・京都弥生会館)
- 9/29 真田ゼミ同窓会 (Tawawa)
- 10/6 政策科学部同窓会10周年記念
パーティー
(ホテルグランヴィア京都)
- 10/26 岐阜県建設会結成総会
(30名・コナミスポーツクラブレス
トラン)
- 10/26 衣笠会総会 (20名・松葉亭)
- 10/27 建設会京都支部総会
(110名・京都タワーホテル)
- 11/4 応化会関東支部総会
(40名・東京キャンパス)
- 11/4 経済学研究会OB会総会
(27名・東京国際フォーラム)
- 11/10 村上弘ゼミ同窓会総会
(25名・朱雀キャンパス多目的ホール)
- 11/11 情報会ホームカミングデー (BKCコアステーション)
- 11/16 愛知県衣笠会総会 (50名・名鉄ニューグランドホテル)
- 11/17 小牧会発足10周年記念総会
(30名・京都ロイヤルホテル&スパ)
- 11/24 国際関係学部校友会総会
(170名・グランドプリンスホテル新高輪)



経営研究会同窓会総会



岐阜県建設会結成総会



経済学研究会OB会総会

- 11/24 法学部井戸田会総会
(35名・京都タワーホテル)
- 12/1 遠藤晃ゼミOB会総会
(50名・衣笠キャンパス以学館食堂)



国際関係学部校友会総会

サークルOB・OG会

- 9/9 軽音楽部OB会総会
(80名・京都タワーホテル)
- 10/25 写真研究会OB会「カメラハイク」
(23名・高島市新旭町針江)
- 10/27 合気道部創部45周年記念祝賀会
(150名・京都弥生会館)
- 11/17 広告研究会OB会親睦会
(65名・京料理「花斗」)
- 11/17 証券研究会OB会総会
(30名・聖護院 御殿荘)
- 11/17 男子ソフトボールOB会総会
(39名・京都ガーデンホテル)
- 11/24 マウンテンバイクツーリング
サークル花鳥風月OB会総会
(34名・がんこ三条本店)
- 12/1 放送局OB会総会
(90名・朱雀キャンパス多目的ホール)



写真研究会OB会「カメラハイク」



合気道部創部45周年記念祝賀会



男子ソフトボールOB会総会

その他の会

- 9/12 立命館慶祥会同窓会交流パーティー
(110名・ホテルライフオート札幌)
- 9/29 スポーツフェロー
「川本相談役への感謝の集い」
(86名・京都全日空ホテル)
- 10/8 Ritsランニングクラブ
(12名・駒沢オリンピック公園
総合運動場)
- 10/20 法学部中川ゼミ中川会総会
(27名・Tawawa二条)



立命館慶祥会同窓会交流パーティー



法学部中川ゼミ中川会総会

この 点

この冬開催の展覧会
「印象のかたち——表現いろいろ——」から
椅子

昭和四二（一九六六）年 木製 九三・五×四三・五×四〇・五 cm



立命館総合ミュージアム

この冬の展覧会・催し案内（一般公開分）

◆京都府立堂本印象美術館

「印象のかたち —表現いろいろ—」

堂本印象が制作した作品の数々の中でも、屏風、絵巻、軸などの変化に富んだ平面作品から陶器や木彫人形などの立体作品にいたるまで様々な形態を通して、印象が求めた表現の「かたち」についてご紹介いたします。

- ◎会 期：開催中 3/9(日)まで
- ◎開 館：9時30分～17時（入館16時30分まで）
- ◎休館日：月曜日（休日の場合はその翌日）ならびに12/28（金）～1/4（金）
- ◎入館料：一般500円／高大生400円／小中生200円
- ◎Tel.075-463-0007 ◎http://www2.ocn.ne.jp/~domoto/

日曜美術講座

「表現形式の多様性 — 印象の試み」

- ◎講師：並木誠士 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
- ◎日時：2/17（日）14時～15時30分
- ◎場所：アートリサーチセンター多目的ホール

◆立命館大学国際平和ミュージアム

ミニ企画展示室の予定

「信楽焼の陶器製地雷

— 国富産業有限会社跡地採集資料を中心に —」

1/9（水）～1/30（水）

本学文学部・木立雅朗教授ゼミによる発掘資料の展示。終戦間際に急造された信楽焼の陶器製地雷や、当時の状況を聞き取りした調査を紹介します。

「映画プログラムの世界

— 映画で賑わう衣笠・西陣 —」

2/1（金）～3/16（日）

戦前の衣笠・西陣地域の映画産業の様子を物語る、映画プログラムやチラシ等を展示します。

本展示関連の親子企画

「体験してみよう! 映画の始まり」

- ◎2/9（土）・10（日）14時～15時30分（両日とも同内容）
- ◎内容：初期の映画の原理を用いた工作など
- ◎対象：小・中学生とその保護者 ◎費用：入館料のみ
- ◎申込：国際平和ミュージアムまで、電話またはFAXにて

- ◎開 館：9時30分～16時30分（入館16時まで）
- ◎休館日：月曜日（休日の場合はその翌日）ならびに12/27（木）～1/7（月）
- ◎入館料：大人400円／中高生300円／小学生200円
- ◎Tel.075-465-8151 ◎Fax.075-465-7899
- ◎http://www.ritsume.ac.jp/mng/er/wp-museum/

背

もたれに装飾が施された木製の椅子。これは、昭和四一（一九六六）年に堂本印象が自らのデザインにより設立した堂本美術館（現・京都府立堂本印象美術館）に置かれたものである。椅子自体の制作は専門業者が行ったにせよ、およそ三十脚にも及ぶ椅子の背もたれ部分の表現は、印象によって全て異なる様に形作られている。これらの椅子を制作するために、印象はたくさんのイメージを残した。何気ないメモ帳に描かれたスケッチからは、日常における印象の創作意欲がうかがえる。

日本画家として知られる堂本印象ではあるが、その表現手段は、絵画のみならず彫刻、陶芸、染織、木工、金工にいたるまでに幅広い。美術館では外観や館内の壁面装飾をはじめ、ドアノブ、ランプなど細部にいたるまで自らのイメージを追求した。展示される作品はもちろん、館内の空間にも目を向けることで印象の構築したイメージがより深く味わえるだろう。

（学芸員・山田由希代）

堂本印象美術館

「印象のかたち —表現いろいろ—」

2008/3/9(日) まで

会期中有効

校友招待券

（本券で校友1名様ご入館いただけます）
校友会報「りつめい」No.231



ノーベル平和賞受賞者が来学

この間、ノーベル平和賞受賞者三氏を本学にお招きし、講演会等を実施しました。

金大中氏に名誉博士号贈呈・記念講演会開催

十月三十日(火)、朱雀キャンパスにて金大中第十五代大韓民国大統領へ名誉博士号を贈り、贈呈式ならびに記念講演会を開催しました。

金前大統領は「朝鮮半島の平和と韓日関係」を演題に講演を行い、「米国の北朝鮮に対す



る経済制裁の解除や六カ国協議の進展によって、二〇〇八年は朝鮮半島で平和が定着する画期的な年となる」との見解を示しました。日本に対しては、「韓日友好協力の歴史を再現し、朝鮮半島と東北アジアの平和に向けて共に努力しましょう」と呼びかけました。

会場には本学学生、経済人、行政関係者など約四百人が集まり、金氏の講演に聞き入りました。

グローバルゼーション・フォーラム2009にてミハイル・ゴルバチョフ氏が講演

十一月十五日(木)、朱雀キャンパスにおいて地球温暖化防止策を考えるシンポジウム「地球環境と人類の未来」ポスト京都への選択」を実施しました。元ソビエト連邦大

統領のミハイル・ゴルバチョフ氏が基調講演を行い、学生や市民等、約四七〇名が参加しました。

ゴルバチョフ氏は、サステイナブル(持続可能)な発展の必要性を説き、「環境問題は私たち



にとってどんな産業の発展よりも重要」「今必要なのは国同士の取り組みをつなげる行動のコーディネート」と語り、市民が大きな役割を果たす」と締めくくりました。

シンポジウム「低炭素社会シナリオ2050」と日中印の役割」にてIPCCパチャウリ議長が講演

十二月二十日(木)には、二〇〇七年ノーベル平和賞を受けた団体「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」のR・K・パチャウリ議長を招き、標記のシンポジウムを開催。パチャウリ議長が、「ポスト京都議定書と低炭素社会に向けての取組み」と題した基調講演を行いました。

教育・研究政策の新展開

松竹—立命館—京都府映像文化の発展を目指して産学公連携

二〇〇六年に、松竹(株)及び松竹京都映画(株)と、映像産業の発展を担う人材育成、映画・映像技術の研究開発、京都を中心とした文化の創造・発展への寄与を産学連携によって行うことを目指して「連携基本合意書」を締結しました。このほど、この趣旨をご理解、ご支援いただき、京都府を交えた三者による産学公の連携が実現いたしました。



これに基づき、松竹(株)と立命館のコラボレーションによる映画「京都太秦恋物語(仮題)」が、映像学部客員教授である山田洋次監督の監修で制作されることになりました。また、松竹京都映画(株)撮影所内に、映像学部生の実習施設として、スタジオ二棟と編集施設等を設置します(二〇〇九年一月竣工予定)。このほか、貴重な映

像資料の収集、デジタル復元等の技術開発や、松竹グループの映像制作現場でのインターンシップ、講師派遣等が行われます。

新・大阪富国生命ビルに大阪での新拠点を開設へ

富国生命保険(相)が大阪・東梅田に建設する新・大阪富国生命ビル(大阪市北区小松原町、二〇一〇年完工予定)に、講義室やセミナー室などのキャンパス機能のある教育・研究拠点を開設します。大阪・淀屋橋で行っている社会人対象の大学院講義や、中国・同済大学と連携したビジネス中国語講座などの実施を予定しています。

社会の中で活動する学生

映像でも立同戦 日本中央競馬会PR映像を制作

立命館大学と同志社大学の学生が日本中央競馬会(JRA)とのコラボレーションによってPR映像を制作しました。映像は、十一月十七日、二十五日までの中央競馬開催日の五日間、京都競馬場のターフビジョンで放映されました。この企画は、若者の競馬離れが進む中、学生の感性で「馬の美しさ」を表現してもらおうと、JRAが両大学に依頼したことによるものです。

両大学ともに、二〇〇七年春から企画、撮影や編集を行いました。立命館は学生ら八人が人の心を動かす馬の美しさを表そうと、隠岐島に放牧されている馬と、島を十年ぶりに訪ねる若者の姿を重ね合わせました。同志社は、学生四人が厳しい世界を生きるサラブレッドを表現しようとして、レースで懸命に走る競走馬や、淘汰されて乗馬になった馬の映像を盛り込みました。



学生の進路・就職

就職活動の時期となりました。現三回生はすでにガイダンスやセミナーへ参加し、就職活動もいよいよ本格化してきました。

ここでは本学学生の近時の就職状況ならびに難関国家試験結果について、表を用いて簡単に紹介いたします。

民間企業への就職

従業員二十人以上、資本金十億円以上の企業への就職者数が伸びる

大企業への就職状況は確実に伸びてきています。立命館大学の学生への評価が徐々に高まってきたことがその理由と考えることができます。(表一)

主な私立大学の就職状況(二〇〇六年度)

他大学と比較しても健闘しているといえます。就職率は「就職者+大学院進学/卒業者」で計算しています(データは「日本の大学トップ100」週刊東洋経済 2007.10.13(1)より)。(表二)

表1 立命館大生の従業員1000人以上、資本金10億円以上の企業への就職率の推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1000人以上	53.5%	56.6%	58.4%	59.7%
10億円以上	57.5%	60.7%	64.4%	66.2%

表2 主な私立大学の就職率(2006年度)

順位	大学名	就職率(%)	学生数
1	関西学院大学	85.5	19,559
2	立命館大学	83.3	35,612
3	立教大学	80.0	17,756
4	同志社大学	79.9	25,533
5	関西大学	79.0	29,293
6	法政大学	78.4	29,789
7	中央大学	78.4	27,865
8	慶應義塾大学	77.3	32,191
9	明治大学	75.2	31,074
10	早稲田大学	74.0	54,083

表3 新司法試験合格者数(2007年度)

順位	大学名	合格者数
1	東京大学	178
2	慶應義塾大学	173
3	中央大学	153
4	京都大学	135
5	早稲田大学	115
6	明治大学	80
7	立命館大学	62
8	一橋大学	61
9	同志社大学	57
10	北海道大学	48

表4 国家公務員採用I種試験合格者数(2007年度)

順位	大学名	合格者数
1	東京大学	437
2	京都大学	174
3	早稲田大学	85
4	東北大学	74
5	慶應義塾大学	72
6	九州大学	61
7	北海道大学	58
8	大阪大学	46
9	東京工業大学	36
10	中央大学	35
11	一橋大学	34
12	東京理科大学	32
13	立命館大学	31
14	筑波大学	28

表5 三大難関試験合格者合計人数(2006年度)

順位	大学名	合計人数
1	東京大学	650
2	慶應義塾大学	401
3	京都大学	312
4	早稲田大学	247
5	中央大学	218
6	一橋大学	152
7	明治大学	111
8	神戸大学	107
9	立命館大学	103
10	北海道大学	102
11	同志社大学	97
12	東北大学	84

難関国家試験合格者数

◆司法試験

二〇〇七年度の新司法試験では、二〇〇六年度に比べて合格者数を大きく伸ばしました。合格者数、合格率ともに関西の私立大学ではトップです。なお、旧司法試験合格者は三名でした。(表三)

◆国家公務員採用I種試験

東京大学・京都大学の実績が高い試験ですが、二〇〇七年度は私立大学では五位。関西の私立大学ではトップの合格者数でした。(表四)

◆公認会計士試験

二〇〇七年度は、過去最高の五十名の合格者を輩出しました(十二月七日現在判明分。他大学の合格者数は調査中)。

二〇〇七年十一月には、「BKC大原公認会計士講座」の受講生を支援することを目的とした「エクステンションセンター公認会計士オフィス」がびわこ・くさつキャンパスにオープンしました。公認会計士を目指す学生をより一層サポートしてまいります。

◆三大難関試験の合計数(二〇〇六年度)

二〇〇六年度の三大難関試験合格者数の合計を表にしました。関西の私立大学ではトップです。(表五)

叙勲・褒章

川本八郎・相談役が旭日重光章を受章

「旭日重光章」は、「国家または公共に対して功労がある者の内、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者」に対して授与されるものです。

今回の受章は、立命館学園の第三次長期計画以降の様々な改革における川本相談役のリーダーシップが高く評価されたものであり、校友の皆様をはじめとする学園関係者全員での受章といっても過言ではありません。立命館学園としても大変喜ばしいことであります。今後とも立命館学園に対するご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

佐和隆光・政策科学研究科教授が紫綬褒章を受章

紫綬褒章は「学術芸術上の発明改良創作に関し業績著明なる者」に授与されます。

この度、佐和教授の計量経済学・経済思想・環境経済学という幅広い分野での功績が評価されました。佐和教授は京都大学経済研究所教授から二〇〇六年四月に立命館大学特別招聘教授となり、現在、政策科学研究科で「経済政策論」を、政策科学部で「社会経済システム論」を担当しています。



新リッツマークプロモーション 進行中!!

立命館学園関係者の「心をひとつ」にするために制定したコミュニケーションマーク。
皆様に親しまれている「リッツ」という愛称を使い続けていただくために、
このコミュニケーションマークを「新リッツマーク」と名付けました。
このマークをもっとたくさんの皆様に知っていただこうと、
ただいま立命館では「新リッツマークプロモーションキャンペーン」を実施しています。
その様子をご紹介します。

キャンパスにもRが登場

「R」をあしらったポスターや旗、看板が、キャンパスのあちこちに登場。モデルはアメリカの大学です。すっかりキャンパスライフにとけ込んで、学生を元気づけています。



RITSUMEX'07 ~オール立命館デー in東京

新リッツマーク「R」は、RITSUMEX'07でデビューしました。参加された多くの皆様から、「元気が出た」「応援したい」との声をいただきました。



グッズも誕生

「R」をあしらったトートバッグ、Tシャツ、レポート用紙、定規、マウスパット、クリアファイルを販売しています。「おしゃれ」「洗練されてる」と好評です。さらに種類を増やしていく予定です。



スポーツの応援もRで

「学生のスポーツを応援する際に、スタンドを『えんじ』で埋め尽くしたい。皆で共通のグッズをもって応援したい」ということで、応援ハリセンを作りました。今後は「のぼり」「小旗」等の制作も予定しています。



これからまだまだキャンペーンは続きます。校友の皆様もこの新リッツマークを様々な場面でご活用いただきますようお願いいたします。

新リッツマークグッズ お問い合わせ先

(株)クレオテック ショップリベルテ Tel.075-463-9740 E-mail: liberte@creotech.co.jp

Rマークをデザインされたアートディレクター秋山具義氏からのメッセージ

このデザインを依頼された時、大きな使命感とともに気合いと緊張感を感じました。同時に、「日本にある大学の中で最もシンプルで美しいマークをデザインしよう」と決意いたしました。キャンパスごとに異なる顔をもつ多様性のある立命館の姿を一つにまとめられるようなマークを「設計」したいと強く思いました。

大学のコミュニケーションマークであるからには、知性や品位を感じてもらえるものにしたいと思い、このマークの大きな特徴といえる黄金比を使いました。黄金比とは、人間が最も美しいと感じる割合5:8のことをいいます。長い間飽きずに使用され続けるために、自然と受け入れられるよう「設計」しました。フォントも一般的なゴシック体とは異なる綺麗なオリジナルのものを採用しました。

学生にはこのコミュニケーションマークを身につけることでパワーを感じてほしいです。気持ちがポジティブになる、どこか背筋の伸びるようなパワーを与えてくれるものとして受け止めていただければと思います。今後、このコミュニケーションマークを学生がどのように利用するか、学生自身の可能性に期待しています。

秋山 具義 氏 (Gugi Akiyama)

アートディレクター

1966年東京秋葉原生まれ。1990年日本大学芸術学部卒。同年、I&S入社。1999年 デイリー・フレッシュ設立。2007年 デイリー・フレッシュ・ストア オープン。ポスター、パッケージデザイン、新聞広告、雑誌広告、写真集、CDジャケットのアートディレクション、および各種グッズ制作、CMの企画と演出を担当。主な仕事に、SHARP「エコロジークラスでいきましょ。」キャンペーン、エン・ジャパン「転職は慎重に。」キャンペーンなど多数。



楽しみながら試合に挑戦! 1回生で射抜いた全国優勝の座!

第20回全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会での優勝おめでとうございます。フィールドアーチェリーという種目はあまり聞き慣れない名前ですが、どのような大会なのでしょう? また、当日の試合展開をお聞かせください。

フィールドアーチェリーは、山中に設置された標的を4名1グループで、3本ずつ射って回ります。様々な景色を見ながら矢を打つことができるのが特徴で比較的楽しい種目です。この全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会はそのようなグループで予選ラウンド、決勝ラウンドを行い、その中で勝ち残った4人による決勝トーナメントを行うという形式で行われました。

予選ラウンドは1位、決勝ラウンドは2位と順調に決勝トーナメントに進出できました。決勝トーナメントではとても緊張しました。4つの的の合計点で勝敗を決する優勝決定戦では、去年の優勝者である福長希代美選手(広島大学2回生)と対戦しました。1つ目の的ではリードしたのですが、2つ目の的で逆転され、3つ目の的でなんとか2点差まで追いつくという接戦でした。最後の的を狙う時はすごく緊張してミスしてしまい、負けてしまったと思いましたが、結果を見てみると、私が



相手の選手に1点差で競り勝っていたため優勝できました。その結果を知りすごく驚きましたが、本当に嬉しかったです。

大学に入ってからなかなか本来の調子が出せず、今大会も予選突破できればいいと思って臨んだ大会でしたが、先輩方が場の雰囲気盛り上げてくれ、とても楽しく試合に入れたおかげで優勝できたと思います。

大学に入ってからなかなか調子が出なかったとお聞きしましたが、その原因は何なのですか。

大学に入って、今までと環境が大きく変わったことが一番の原因だと思っています。高校の頃は練習場も近くにあり、好きなときに時間を割いて練習できていましたが、今は勉強との両立も意識しています。また、下宿をして衣食住のすべてを自分でしなくてはならない中で、アーチェリーの練習も効果的に行うサイクルに慣れるのに時間がかかっていました。そんなときは、先輩方に相談することで気持ちが楽になりました。先輩にアドバイスしてもらったり、一緒に練習して技術を吸収できることが大学に入って何より心強い点ですね。今回の大



Rits One

輝いています、
ときの人

K i y o m i H a y a s h i



林 享美さん

政策科学部1回生

アーチェリー部

会にむけても、先輩方にメンタル面で支えてもらったことも大きく影響していると思います。

成績が伸びない苦しい時期を乗り越えて優勝されたんですね。1回生ということで、これからますますの活躍が期待されます。林さんの今後の目標を教えてください。

近い目標としては、インカレに出場できるようにがんばりたいです。また、大きな試合を通じてメンタル面で成長しなければならないと思っています。

今回の試合でも緊張しなければもっと良いスコアが出たと思うので、まず緊張を楽しむようになりたいです。そして、ゆくゆくは部内一番の選手、京都一番、関西一番、全国一番の選手になって、大学生の間にユニバーシアードの日本代表になり、世界にも挑戦したいですね。

取材・文: 森松 敬太(学生広報スタッフ/法2)
写真: 林享美さん提供

SPORTS & EVENTS

S P O R T S

スポーツ

問い合わせ先: スポーツ強化センター
075-465-7863

アーチェリー部

全日本学生フィールドアーチェリー
選手権大会
(10月13日～14日 佐伯国際アーチェリーランド)
▶ 優勝 林 享美(政策1)

アイスホッケー部

関西学生リーグ
▶ 優勝

アメリカンフットボール部

関西学生リーグ
▶ 6勝1敗 2位

カヌー部

平成19年度日本フラットウォーター
レーシング選手権
(9月7日～8日 木場潟カヌー競技場)
▶ 男子カヤックシングル1000m
優勝 渡辺大規(経営1)
▶ 男子カヤックフォア1000m
優勝 鈴木康大(経営4)

弓道部

全日本学生王座決定戦
(11月23日～24日 伊勢神宮弓道場)
▶ 男子 優勝(創部80年で初優勝)



24日の決勝戦では全日本学生選手権優勝校の日本大学と対戦。3時間を超える試合で両校9割アベレージの驚異的な中なか、じりじりと本学が日本大学を引き離し144中(的中率9割)4射差で勝利、1928年創部以来初の大学王者となった。

王座決定戦では、東京地区の大学が圧倒的に強く、関西の大学としては第43回の近畿大学以来12年ぶりの優勝となった。

射撃部

第13回秋季全関西女子学生
ライフル射撃選手権大会
(9月5日～8日 能勢町ライフル射撃場)
▶ 女子ライフル3姿勢
優勝 川端さなえ(法3)

相撲部

第32回全国学生相撲
個人体重別選手権大会
(9月23日 靖国神社相撲場)
▶ 85kg級
優勝 島子隆司(産社1)

重量挙げ

関西学生選手権
(12月1日 羽曳野コロセアム)
▶ 男子56kg級 優勝 中川大樹(産社2)
▶ 男子94kg級 優勝 丹羽清文(政策2)

ソフトテニス部(男子)

関西学生選抜インドア選手権
(11月10日 大阪市中央体育館)
▶ 優勝 石川勇貴(経済1)・生田翔平(経営1)

卓球部

関西学生秋季卓球リーグ戦
▶ 男子・女子ともに団体戦優勝

バドミントン部

関西学生秋季リーグ戦
▶ 女子 優勝

フェンシング部

第57回全日本学生フェンシング選手権大会
(11月12日～16日 駒沢屋内球技場)
▶ 女子サーブル個人 優勝 高橋里美(産社2)

男子陸上競技部

びわ湖大学駅伝(第69回関西学生対校
駅伝競走大会兼西日本大学招待)
(11月24日 びわ湖畔)

▶ 優勝
第1区 西野智也(経済2)
第2区 川上拓哉(経営3)
第3区 樋口達夫(理工4)
第4区 古林翔吾(経済1) 区間賞
第5区 河原井司(経営3) 区間賞
第6区 藤原庸平(経済2)
第7区 相澤直亮(経営4)
第8区 寺本英司(経済1) 区間新記録
4時間13分5秒

以上8名からなるチームが奮闘し、4時間13分5秒のタイムでゴール。2005年にコースを琵琶湖岸に移した「第1回びわ湖大学駅伝」以来2年ぶりに優勝した。招待校を除く「関西学生対校選手権」としては3連覇。



2007全日本学生陸上競技
チャンピオンシップ
(9月9日 平塚競技場)

▶ 男子400メートル
優勝 内記正裕(経済5)

女子陸上競技部

第25回全日本大学女子駅伝
対校選手権大会
(10月28日 仙台市)

▶ 優勝(2連覇、大会新記録更新)
第1区 大沼香織(経済1) 大会新 区間賞
第2区 樋口紀子(経済4) 大会新 区間賞
第3区 小島一恵(経営2) 大会新 区間賞

第4区 山本菜美子(経営1) 区間賞
第5区 境田 遥(経営2) 区間賞
第6区 松永明子(経済3) 区間2位
2時間6分19秒 大会新



1区では1区生の大沼選手が、大学入学後初めての駅伝であることを全く感じさせない快調な走りで見事区間賞、2区以降は2位以下とのタイム差を広げ、一度も先頭を譲ることなく走りきることができた。そして最終6区は長距離パートリーダーの松永選手が2位に2分以上の差をつけ、監督やコーチ、共に走った仲間の待つゴールにトップで飛び込んだ。今回は2年連続4度目の優勝、走者6人中5人が区間賞を受賞した。

競技場や沿道には宮城県内や近県から多くの校友、父母、陸上競技部OB・OGが訪れ、立命館大学応援団とともに走者達に熱い声援を送った。

陸上ホッケー部(男子)

西日本学生選手権
(9月24日 親里ホッケー場)
▶優勝(2年ぶり6度目)

レスリング部

西日本学生秋季リーグ
▶優勝

西日本学生選手権
(9月23日 金岡公園体育館)
▶男子フリースタイル84kg級
優勝 古家 圭(経済3)
▶男子フリースタイル96kg級
優勝 東 誠次(経済4)

CULTURE / ART

文化・芸術

問い合わせ先: 学生オフィス
075-465-8141

第5回京都学生祭典開催

(10月6日~7日 平安神宮周辺)

2007年度は「この感動、見逃せない!」をテーマに多くの企画が行われた。

10月7日(日)は、京都市左京区の平安神宮、岡崎周辺の神宮道を彩る大パレードか



ら始まった。また、「京炎 そでふれ! 全国おどりコンテスト」が開催され、京都をはじめ各地から集まった学生や市民によって個性溢れる演技が披露された。会場では、映画祭や縁日なども行われ、多くの学生たちが参加した。また、京都学生祭典実行委員会の一員として祭りを盛り上げる立命館の学生の姿も多く見られた。

今年も2日間にわたって多くの来場者が訪れ、学生たちの活気溢れるパフォーマンスに大きな声援と拍手を送っていた。

出前ちんどん

「第32回ジャパンウィーク2007
ポーランド・ワルシャワ」に参加
(10月25日~30日 ポーランド・ワルシャワ)

「ジャパンウィーク」は、(財)国際親善協会主催で毎年世界各地の都市で行われている日本の芸術・音楽・スポーツなどの文化を紹介するイベントで、「出前ちんどん」は日本の伝統文化を今に伝えていく団体として招致団体の一つに選ばれた。

「出前ちんどん」は、昔ながらの「チンドン屋」



に扮し、日本の大正・昭和時代の流行歌・童謡やポーランドに馴染みのあるクラシック音楽を演奏した。イベントの集大成である舞台公演では、練習の成果を存分に発揮し、来場者も大いに湧いていた。

立命館アジア太平洋大学・天空祭に立命館大学から7団体が出演

(10月27日~28日 APU)

沖縄伝統芸能・きじむなあ、和太鼓ドン、ジャズクラブ「RUSH」、雅楽会、邦楽部、鉄道研究会、理工学部プロジェクト団体EV-Racingの7団体が参加し、APU学生と交流を深めた。

メンネルコール

フランス・ストラスブル大学コーラス隊「ラッシュクール」との交流演奏会を実施
(10月29日 衣笠キャンパス)

探検部

立命館守山中学校・高等学校で展示企画実施
(10月29日~31日)

インドネシアの人文調査結果と、宮崎県の環境調査の結果を、パネル・映像・フィールドワーク備品・現地の民具によって詳しく紹介した。展示会には80名を越す中学生・高校生が訪れ、熱心に部員に質問している姿が見られた。今回の企画は、探検部が大学での学術活動の学びを伝えることを目的として、立命館守山中学校・高等学校の協力を得て実施された。

BKC・衣笠キャンパス学園祭開催

(11月10~11日 BKC、17~18日 衣笠キャンパス)

今年の学園祭のテーマは「共鳴〜きょうめい〜」。学生文化の発信の場である学園祭で、発信者と参加者がプラスに影響しあって欲しいという願いが込められている。テーマにちなんで、普段は一緒に活動することのない団体同士が互いに協力しあい、今までにないコラボレーション企画が多数行われた。

両日とも2日目のエンディングでは、毎年恒例の応援団が登場し、光と映像を駆使した壮大な演出で学園祭を熱狂のうちに締めくくった。

皆様、年末年始をいかにお過ごしでしょうか。

さて、2007年の校友会行事で特筆すべきは、やはり、「RITSUMEX'07 オール立命館デー in 東京」です。東京校友会をはじめ首都圏の校友会は勿論、各地の校友会の素晴らしい協力のもとに大きく成功することができました。特に、これまでの全国校友大会には出席いただけなかった若い校友にも本当に大勢集まっていただけことは大変嬉しいことです。大会実行委員会、学園当局、総務委員会の皆さま、また参加された皆さま、本当にご苦労様でした。

校友の皆さまは、引き続き嬉しいニュースや楽しいイベントを待っておられることでしょう。私たち広報委員会もご期待に応えるべく展開して参つつもりです。どうぞご支援をよろしく。(尾崎)

11月4日に開かれた「RITSUMEX'07 オール立命館デー in 東京」に参加しました。京都での大会に毎年参加していますが、京都在住者にとっては常に便利な条件でした。今年は関東在住者の条件も考慮し、また、「立命館あり」と関東においてもアピールする機会でもありました。

事前に立命館高校時代に会った関東在住の卒業生たちに連絡し、会場で会いました。40歳代、30歳代、20歳代、家族4人で、また、卒業後15年ぶりに出会う仲間たちもいました。一方、シフト制の勤務の都合で参加できず残念だと言う人もいました。

当日、特に若者達の名刺交換会の会場では、その活気と友好を確かめ合うエネルギーに、新しい立命、いや、伝統的な立命魂を見た思いがしました。(KAZ 中村)

近頃の出来事。

其の壹、私事、偶然と実益を兼ねて新しい事に挑戦を始めた。至って本気、居合わせた御仁に大層褒められ調子に乗っている。詳細は恥ずかしいから文にはしない。

其の貳、出張先で縄文時代の遮光器土偶と火炎土器を目の当たりにした。日本列島土着のかたちである。実物をはじめて見て其の迫力に心を奪われる。

其の参、RITSUMEX'07の成功場面に居合わせた。

其の四、本学の大学運営の英知がアジアで注目されている。その場に立ち会い、なるほどとうなすく場面に出くわしている。

その後、どうする校友会。会報226号で紹介した立命館憲章・中期計画策定の記事。再読を乞いたい。私の視点は、個人から日本、アジアへと駆け巡っている。(オ)

校友会・グループインフォメーション

※(職)は職場電話番号

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
北朋会総会(北海道学校教職員会)	1/ 8 (土) 18:00	札幌後楽園ホテル	立命館慶祥中・高 011(381)8888
浜松会新年会	1/19 (土) 18:30	浜松名鉄ホテル	船越弘光 053(437)2073
北海道校友会総会	1/26 (土) 16:30	札幌パークホテル	中川 均 (職)011(251)3373
愛媛県校友会松山支部総会	1/26 (土) 18:00	国際ホテル松山南館	日野啓介 (職)089(907)9066
静岡県校友会ニューイヤーパーティー	2/20 (水) 19:00	静岡クーボール会館	佐藤友清 052(245)5612
愛知県校友会東三河支部総会	3/ 1 (土) 17:30	豊橋グランドホテル	村田修一 0532(31)3649

校友消息(判明分)

叙勲 2007年度 秋

□旭日重光章

川本八郎氏('58法)
学校法人立命館相談役

□旭日中綬章

森金次郎氏('50専文)
元日本税理士会連合会長

小川竹二氏('60経済)
元豊栄市長

□瑞宝小綬章

中野善夫氏('57理工)
元公立高校長

福山 満氏('57法)
元大阪府警察学校長

筒井孝夫氏('58理工)
元中部近畿鉱山保安監督部
近畿支部長

上木 徹氏('59法)
元滋賀県企業庁長

木宮英嗣氏('59法)
元京都府総合府民部長

吉田清治氏('61法)
元大阪市消防正監

安田哲雄氏('62法)
元和歌山中央郵便局長

□旭日双光章

安井 孜氏('59理工)
元京都府建築工業協同組合副理事長

稲葉克夫氏('62院文)
元青森県文化財保護審議会委員

□瑞宝双光章

池田英宗氏('52経済)
元公立中学校長

給田昭三郎氏('53経済)
元公立小学校長

佐々満郎氏('54法)
元公立小学校長

安田喜一氏('57法)
保護司

西村正博氏('59経済)
元近畿地方建設局用地部
用地調整官

山森大雄美氏('59法)
保護司

隅田 茂氏('62法)
元宮内庁京都事務所次長

□瑞宝単光章

松村元治良氏('48専工)
元中部地域消防組合消防監

吉田安直氏('57経済)
元京都市上京消防団副団長

吉川 進氏('59経済)
西陣織製造業従事者

危険業務従事者叙勲
2007年度 秋

□瑞宝双光章

高田準之助氏('57法)
警察功労・元警視正

□瑞宝単光章

田中 博氏('53経済)
警察功労・元京都府警部

曾我祐恒氏('65法)
矯正業務功労・元法務事務官

褒章 2007年度 秋

□紫綬褒章

佐和隆光氏
本学政策科学研究科教授

□黄綬褒章

高藤昌和氏('56経済)
高藤建設社長

谷岡光明氏('65経済)
兵庫標板製作所社長

岡野益己氏('69理工)
岡野組社長

受賞

□地方自治功労
総務大臣表彰

濱崎正規氏('51経済)
本学名誉教授

□2007年度大分合同新聞
文化賞

<産業経済分野>
中野秀勝氏('58法)

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただいております。

◆柴辻政彦氏('59法) 著

『塙塔 中国の陶芸建築』
鹿島出版会*3200円+税

◆荒木義彦氏
('72院理工・理工学部教授)

吉川雅弥氏
('01院理工博後) 共著

『理工系 情報科学』
共立出版*1800円+税

◆渡辺道夫氏('72法) 著

『入門 山田方谷』
(株)明徳出版社*1280円+税

◆土居政広('73産社) 著

『団塊世代の個人起業』
文芸社*1400円+税

◆手島仁氏('83文) 著

『中島和久平と国政研究会(下巻)』
みやま文庫

◆松本朋子氏('85産社) 著

『買わせる技術』
KKベストセラーズ*1300円+税

お詫びと訂正

230号において「校友消息」欄の訃報のお名前を誤って掲載しました。
ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。
誤：橋本二郎氏 正：橋本次郎氏

2007年度各種国家試験合格者

※在学生を含む

国 家 公 務 員 I 種		31名
司 法 試 験		新62名・旧3名
公 認 会 計 士		*50名 (*12月7日現在判明分)
家庭裁判所調査官補I種		2名
国 家 公 務 員 II 種		137名
弁 理 士		9名

各種証明書発行依頼先について

卒業証明書・成績証明書などの発行依頼は、各学部事務室までお願いします。

法 文 産 国	075-465-8175 075-465-8187 075-465-8184 075-465-1211	政 策 経 済 経 営 理 工	075-465-7877 077-561-3940 077-561-3941 077-561-2625
---------	--	-----------------	--

なお、証明書は卒業時のお名前での発行になります。改姓後のお名前で行発をご希望の場合は、ご卒業の学部事務室にお問い合わせ下さい。

りつめい No.231/2008年1月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行

発行人/山中 諄

編集人/尾崎 敬則

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216

Fax. 075 (813) 8217

URL: <http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>

E-mail: alumni@st.ritsumei.ac.jp